

事務事業及び予算の執行実績

(令和7年度分「一部、令和8年度分を含む」)

静岡県立浜松特別支援学校

目 次

事務事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事務執行の根拠法令調・・・・・・・・・・	35
学校施設の概要・・・・・・・・・・	36
在籍生徒調・・・・・・・・・・	42
入学志願者及び入学者数調・・・・・・・・	46
卒業生の動向調(特別支援学校用)・・	47
生徒の状況・・・・・・・・・・	48
特別支援学校における生産物売払調・・	55
預金調・・・・・・・・・・	60
郵券等受払調・・・・・・・・・・	61
材料品受払調・・・・・・・・・・	62
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	64
委託料に関する調・・・・・・・・・・	66
負担金支出調・・・・・・・・・・	72
建築工事調・・・・・・・・・・	74
公有財産調・・・・・・・・・・	76
借地借家等調・・・・・・・・・・	78
事務機器等債務負担行為又は長期継続契約に係る調	79
行政財産貸付・使用許可調・・・・・・・・	80
主要備品調・・・・・・・・・・	81
公務中の事故等に関する調・・・・・・・・	82
工事中の事故に関する調・・・・・・・・	86
前回の監査結果改善状況調・・・・・・・・	87

事務事業の概要 (本校)

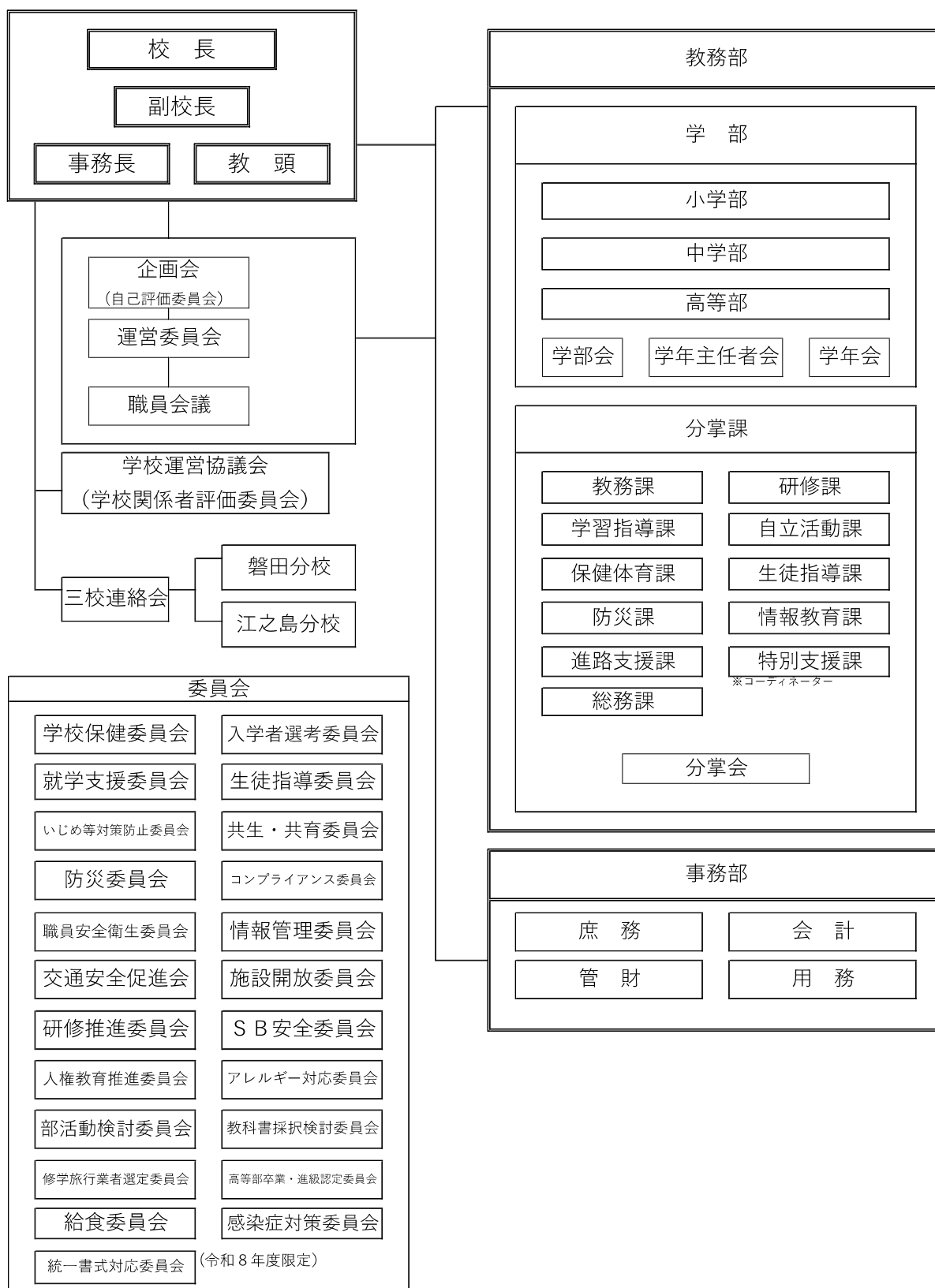
1 概 況

(1) 学校の沿革

- 昭和 52. 4. 1 新設養護学校設立準備委員会発令
12. 12 県立浜松養護学校の設立県議会議決
53. 3. 25 第一期工事完成
4. 1 県立浜松養護学校 開校
4. 8 開校式 入学式
54. 3. 23 第二期工事完成
4. 1 養護学校教育の義務化
4. 5 県立浜松養護学校磐田分校開校
4. 9 訪問教育部児童生徒 16 人入学
55. 4. 1 県立浜松養護学校朝霧分教室開設
56. 3. 2 県立浜松養護学校磐田分校校舎完成
4. 1 県立浜松養護学校高等部開設
57. 3. 11 第三期工事完成(高等部・体育館)
3. 11 合併処理槽完成
8. 30 プール完成
58. 2. 15 第四期工事完成
11. 11 校舎施設等落成記念式典
59. 3. 9 第一回高等部生徒卒業
61. 11. 28 東海地区精神薄弱養護学校研究大会
平成元年 3. 25 高等部生徒昇降所完成
2. 8. 31 小学部昇降口アーケード完成
9. 15 プレールーム改修終了
11. 1 県教委指定教育課程研究発表
9. 10. 31 北館耐震工事及内外装の改装工事完成
10. 2. 7 創立 20 周年記念式典(フェスタ浜養同時開催)
8. 31 南館(西側)耐震工事及内外装の改装工事完成
9. 30 公共下水道接続工事完成
12. 18 食堂棟改修工事完成
11. 3. 31 南館(東側)食堂棟渡り廊下、グラウンド、体育館改修工事給水施設・放送設備完成
18. 7. 1 仮設校舎建築工事完成
19. 4. 1 浜松市政令都市移行に伴う住所変更 浜松市南区江之島町 1266-2
20. 2. 22 創立 30 周年記念式典
20. 4. 1 静岡県立学校設置条例の一部改正に伴う校名変更 静岡県立浜松特別支援学校
23. 4. 1 県立浜松特別支援学校城北分校開校
24. 10. 29 津波避難階段完成
25. 3. 21 災害用仮設トイレ完成
27. 3. 31 朝霧分教室閉校
30. 11. 24 創立 40 周年記念式典

- 令和元年 6. 5 全普通教室エアコン設置
- 2. 9. 5 全特別教室エアコン設置
- 6. 1. 1 浜松市行政区再編に伴う区名変更 浜松市中央区江之島町
- 令和8年 4. 1 県立浜松特別支援学校城北分校を県立浜北特別支援学校に移管
県立浜北特別支援学校城北分校と改称
- 4. 1 県立浜松江之島高等学校内に県立浜松特別支援学校江之島分校開校

(2) 学校運営組織



2 目指す学校像

(令和7年度)

(1) 教育目標

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

(2) 目標具現化の柱

ア＜授業＞ 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校

イ＜安全・安心＞ 命と人権を大切に作る学校

ウ＜協働＞ 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校

エ＜チーム＞ 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

令和7年度の取組目標への評価及び成果と課題

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
児童生徒が夢中になれる学校生活の創造	年間計画の作成にあたって、時期ごと、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	教員95%ができたと回答。 学部や学年が時期ごとに取り組むべきことを明確化・焦点化した年間計画を作成、取り組むことができた。	A	その時期最良のテーマを共通理解することで、学習内容が明確化・焦点化され、児童生徒が夢中になって学びを深めることができた。引き続き児童生徒の思考に沿った年間計画案の作成や授業づくりを継続していく。
個別最適な学びの充実	学びのプロセスと個々の成長を想定した支援目標及び個別の指導計画に基づいた指導ができている。	教員99%ができたと回答。 各分掌から、流れ図、個別の支援計画、個別の指導計画の書き方や要点を周知したことで、基づいた指導ができた。	A	適切な目標設定をし、実態に応じた指導をしようという意識が高い一方、立案した目標や指導が適切か不安を抱える教員もいた。子どもの認知発達段階に応じた合わせた指導の考え方や指導スキルの向上に向け経験豊かな教員等からの助言を受ける機会を設けていく。
協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業づくりを実践している。	集団で取り組む良さを生かした授業を実施し、児童生徒同士の関係や学び合いを重視した実践をすることができた。	A	学年・学部間で児童生徒が、集団で取り組むことで、達成感や満足感を感じることができた。学年・学部を超えた集団や校外の人との取り組みも増えてきている。取り組みを継続しつつ、更に多様な集団での授業を展開していく。

自 立 活 動 の充実	実態を多面的に捉え 的確な指導目標を導 き出し、指導場面を 明確にして、効果的 な自立活動の指導が できている。	教員 98%ができた と回答。 流れ図の考えを活用 して、担当の児童生徒 の実態や課題につい て話し合いを行うこ とで効果的な実践が できた。	A	年度初めと 12 月に学部ごとに流 れ図の目的や活用について学習会 を行った。話し合いを通して、児童 生徒の実態と課題を複数の目で考 えることができた。今後は、流れ図 を活用した話し合いがより深まる 工夫と時間の確保に努めたい。
生 活 単 元 学習、作業 学 習 の 充 実	最良のテーマを基 に、成就したいこと は何かを明確にした 授業づくりをしてい る。 授業や単位ごとに 個々の学びを共有で きている。	それぞれの成果目標 に、教員 98%ができ たと回答。 成就したいことを明 確にし、児童生徒個々 の学びを共有した。	A	最良のテーマ、成就したいこと、解 決したいことを明確にした授業づ くりを行い、各学部の児童生徒の 目指す姿を見ることができた。継 続して取り組んでいくことと学び の共有ができる時間設定を行って いく。
国語・算数 ／ 数 学 の 充実	個々の実態から学習 指導要領の領域・段 階を捉えた指導計画 を立て、授業づくり をしている。	教員 95%ができた と回答 年間指導計画の適宜 見直しの推進、国語・ 算数／数学の授業づ くり研修、教科書活用 研修を行い、授業づく りに生かした。	A	国語・算数／数学の授業づくり研 修、教科書活用研修により、領域・ 段階を意識した授業改善が進ん だ。実態把握や教科書の効果的活 用をさらに日常化させ、今後もよ りよい授業づくりをしていく。
ICT の活用 の促進	児童生徒が ICT に関 心をもち、情報活用 力が高まる授業づく りをしている。	教員 83%ができた と回答。 児童生徒が ICT に関 心をもち、情報活用 力が高まる授業づく りができた。	B	学部規模や全体での ICT 研修を通 じて AI やタブレット端末を使用 することができた。今後は継続し て取り組むとともに、学校で使用 することとして、人と関わりを持 つことができる ICT 活用を意識し て取り組んでいく。
図工・美術 等、表現活 動の充実	感性を磨き、個性を 生かした表現活動の できる素材や補助具 を用意している。	教員 97%が達成でき たと回答。 個々の実態に合わせ た教材を用意し、個性 を生かした表現活動 ができた。	A	外部の作品展に出展したり校内に 作品を展示したりすることができ た。実態に合った楽器や教材を用 意することで、個性を生かした表 現活動ができた。図工・美術や音楽 の授業づくりに専門的なアドバイ スが得られる機会を作るようにし たい。

健康指導 の充実	児童生徒が健康を意識して生活できるよう働き掛けている。	教員 84%が達成できたと回答。 児童生徒が健康を意識して生活できるよう働き掛けができた。	B	保健教材や食育教材について保管場所、教材内容を周知したことで、教材を有効に活用しながら保健体育や生活指導を行うことができた。今後は、学習したことが定着するように取り組んでいく。
道徳指導 の充実	道徳の指導の観点から押さえるべき内容を確認して、各教科や合わせた指導等を行っている。	道徳の指導の観点、内容を確認し、各教科、合わせた指導等の授業を行うことができた。	A	各学部で道徳教育のミニ学習会を実施した。また年間指導計画や単元カードに道徳の観点を入れたり道徳のあらわれを共有し、シートに記録したりした。道徳の観点項目の共通理解を行う時間を設けた上で、児童生徒の良いあらわれを教員間で共有する場を引き続き設定する。
命を守る 意識と行動力の向上	児童生徒の命を守るために、指示がなくとも取るべき行動を自分で判断することができる。	11月の日時非通知訓練（地震・津波）では、その場で判断し、周りの児童生徒の安全を最優先にした避難誘導ができた。	A	年度開始から間もなく避難経路確認と避難訓練を行い、年間5回の避難訓練を実施した。今後の保護者参加の引き渡し訓練では、職員評価を基に、より実地的な訓練の実施を計画する。
安全・快適な環境づくり	施設を効果的に活用するために、廃棄・片づけ・清掃に自ら取り組んでいる。	教員 98%が達成できたと回答。日番が放送をかけたり、掲示板で「今月のポイント」を伝えたりすることで安全点検の習慣化につながった。	A	物が増え、多忙さが増す後期は清掃・片付けが不十分な箇所が増えた。次年度は分掌毎、学部毎、管理できる仕組み作り（作業時間確保、物品チェック）を行い、年間を通して施設をより効果的に活用できるようにする。
事故防止 の強化	けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行っている。	教員 90%が達成できたと回答。 けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行うことができた。	A	月に1回各学部や学年などを中心として事例児、事例生徒を設けた事故を防止するための研修を行った。有効だった予防方法や支援などを学部や学校全体に周知することを引き続き行い、けがや事故の予防を心掛けていく。
人権を守る意識と行動力の向上	学校が児童生徒の居場所(安心する場)となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。	教員 100%が達成できたと回答。年3回の人権アンケート、学年会で話し合いの場を設け、自身の行動を振り返った。	B	できたという回答が多かった一方で、威圧的な指導、一方的な叱責が見られるという意見もあった。障害特性や発達段階に考慮した指導ができる組織の体制づくりに向け引き続き取り組んでいく。

相談体制づくり	校内で児童生徒が相談しやすい場ができている。	教員 98%が達成できたと回答	A	新たにはまтокサポートルームを開設した。運用には至らなかったため来年度に向け、周知を呼び掛けていく。
発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	教員 98%ができたとは回答。 ホームページ、インスタグラムを活用し、発信の仕方を工夫することができた。	A	学校ホームページやSNSを利用した積極的な配信を行うことができた。高等部ではクリーンハート班の生徒によるインスタグラムでの配信活動も行うことができた。今後も学校を知ってもらえる工夫をして継続的に発信活動に取り組んでいく。
江之島地区三校(浜特・江南中・江之高)の協働体制の強化	三校協働事業が少しずつ実施できている。	三校生徒会交流会を2回開催した。	A	親睦を深めるレクリエーションや、各校の生徒会を盛り上げる活動に取り組んだ。中学校のアルミ缶回収や、高校の分かりやすい教室表示への取組に対して感想を伝える等、各校の生徒会活動に協力できた。二校の意識も高まっているので、継続して取り組む。
学校応援隊の活用推進	地域を知る、地域と触れ合う、地域の役に立つ等の活動に取り組んでいる。	教員 97%ができたとは回答。 学年や学部の実態に合わせて、地域の学習資源を効果的に活用した授業が増えた。	A	新たな地域とのつながりや既にあるつながりを基に活動を広げる等により、地域学習が増えた。高等部の地域清掃が全校での活動になり、地域や保護者を巻き込んで実施した。今後も地域と触れ合い、地域に貢献する活動に計画的に取り組んでいく。
進路指導の充実	児童生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にしたい進路指導をしている。	教員 98%ができたとは回答。 関係機関とも連携を図り保護者への情報提供、個別相談、教員の施設見学等を行った。	A	保護者の願いを大切にしたい進路支援のために、関係機関と連携し、情報提供や職員研修に努めることができた。「考え、選び続ける進路」を目標に、小学部から高等部までの見通しをもって、児童生徒一人一人の将来の生活を見据えた支援の充実を図りたい。
センター的機能の充実	高等学校や小中学校のニーズに対応するため、教育相談、研修支援等への依頼に応じている。	今年度より連携高等学校巡回訪問を実施し、高等学校での課題が分かった。	B	連携高等学校の巡回相談では、浜松西高、浜松南高、浜松江之島高に訪問した。高等学校での課題が分かった。次年度以降も継続して行っていく。一方で、小中学校からの

				教育相談は限定的だった。次年度以降もセンター的機能の充実化を図っていく。
コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	教員 95%ができたと回答。 相手の立場に立った伝え方、受け止め方を意識し、働きやすいチーム作りを心掛けた。	A	それぞれの教員がお互いの仕事の状況や背景を理解し合い、協力し合う意識をもつことができた。自分と相手の感じ方や考え方の違いを常に意識し、尊重した関わりを心掛けることで、働きやすいチーム作りにつながった。一方で、忙しさや緊張感等から意図が十分伝わらなかったり、過敏に感じてしまったりすることもあった。より丁寧な言葉選びや伝え方を意識し、相互関係を深めながら安定したチームを継続していく。
働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、空き時間を確保している。時間外勤務45H/月以上が連続する職員はいない。	各学部で空き時間を確保したが業務の重なりや偏り等により十分に取れないときがあった。 時間外勤務 45H/月以上が連続する職員はいなかった。	B	業務の重なりや偏り等を鑑みながら空き時間を確保していけるよう各部主事、学年主任で年間計画、業務軽減の話し合いと検討を重ねていく。 職員の健康やワークライフバランスを維持していけるよう週1回の定時退庁日の継続をしていく。
指導効果を高める予算の執行	必要物品の計画的な購入、不具合箇所への迅速な対応、不用品等の積極的な廃棄等を行っている。	物品購入、廃棄処理等については計画どおり執行した。施設点検や要望に応じ不具合箇所への対応をした。	A	例年より早目の執行に心掛け、効果的な予算執行ができた。全体的な予算不足や分校分の予算確保に十分ではないところがあった。
倫理観の向上	不祥事0件	同僚性を高め、不祥事を根絶する明るく風通しの良い職場づくりに努めた。一方で、高い倫理観を求められる教職員として更なる倫理観の向上が必要である。	B	学年でグループワークを設定し同僚性を高め、風通しの良い職場風土づくりを行った。「私の人権宣言」「安全運転宣言」を記入し職員玄関前に掲示し意識を高め合うことができた。職場で働く仲間を思いやり、健やかな心身を保つとともに、高い倫理観を持つ集団としての風土づくりを行っていく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和7年度	地域に貢献する学校づくりの一環として、以前から高等部が取	高等部の生徒だけでなく、小学部中学部の児童生徒も一緒に取り組んだことで

	り組んでいた「江之島クリーン作戦」を、全校児童生徒教職員に拡げ、小・中・高等部の児童生徒がこの日に学校内外の清掃に取り組んだ。 教員の「働きがい」の更なる向上のために、「浜特夢を語る会」を年に2回行い、浜松特支の教員として「浜特の未来」「浜特の役割」など、有志教員で語り合った。	学校が一体となり、学部を超えた関わりと交流ができた。さらに、学校周辺地域の方々とも一緒に清掃活動に取り組んだことで、地域の方々に喜ばれ、互いに感謝をし合う機会となった。今後、更に多くの児童生徒と関りをもてるような取組の工夫と継続が必要である。 「浜特夢を語る会」では、有志教員が集まり「未来と役割、願い」を語り合ったことで、地域での役割、中学校、高等学校とのつながりについて意見交換し、今後の学校運営に役立てることができた。一方で、「働きがい」のみならず「働きやすさ」も大切にする職場として更に意識向上を目指す必要がある。
--	---	---

5 教職員について

(1) 異動状況

区分		本務職員											
		校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主査	主任	主事	技能長	小計
本校	転出者				1	21			1	1			24
	退職者					3							3
	転入者				1	20			1				22
	新任者					6							6
	再任用者												0
	差引増減				0	2			0	△ 1		0	1

区分		臨時職員				会計年度任用職員				合 計
		任期付教諭	臨時教諭	臨時栄養教諭	任期付短時間勤務教職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員	スクールカウンセラー	就労促進専門員	
本 校	転出者	2	5							7
	退職者			1		3				4
	転入者	1	1							2
	新任者		1			1				2
	再任用者									0
	差引増減	△1	△3	△1	0	△2	0	0	0	△7

(2) 現員数 ア 職員の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区分	本務職員										
	性別	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主査	技能長	小計
本校	男	1				50			1	1	53
	女		1	1	1	70	2	1	2		78
	計	1	1	1	1	120	2	1	3	1	131

区分	臨時職員					会計年度任用職員			学校医	小計	合計
	性別	任期付教諭	臨時教諭	臨時栄養教諭	任期付短時間勤務教職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員	スクールカウンセラー			
本校	男	1	5			2	1		8	17	70
	女	4	5			1	4	1	0	15	93
	計	5	10			3	5	1	8	32	163

イ 職員の年齢

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	26	
30歳以上40歳未満	45	
40歳以上50歳未満	27	
50歳以上56歳未満	18	
56歳以上61歳未満	14	
61歳以上	1	
計	131	平均年齢 39.7歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

	令和7年度	令和8年度
取組と成果及び課題	・定期健康診断の結果、要精密検査、再検査の職員に対し、確実に受診するように指導した。 ・職場の健康づくり支援事業を活用し、「ストレス軽減と自己肯定感アップのためのアサーション（自己表現）トレーニング」、「傾聴について」、「神経言語プログラミング（NLP）～リフレーミングで視点を変える～」、「行動心理学」の4講座を開催した。事前に講座希望調査をし、自分の興味関心のある内容を選べるようにした。講座を受講したことで、相手に対して不快な気分や印象を与えてしまう可能性を理解して対応することが大切であることがわかった。今回学んだことを日常のコミュニケーションの中に取り入れ、より良い人間関係が作れるように実践していきたいと感じた。 ・校内委員による職員安全衛生委員会を毎月実施し、教職員の健康状態の把握に努めたり、職場環境について協議したりし、労働環境の改善に努めた。	・全職員の定期健康診断を予定している。 ・職場の健康づくり支援事業を活用し、講座を開催する予定である。 ・校内委員による職員安全衛生委員会を毎月実施し、教職員の健康状態の把握に努めたり、職場環境について協議したりし、労働環境の改善に努めていく。

イ 健康管理状況

(ア) 7年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 128 人 職 員 数 129 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

1 人 産休・育休

(イ) 8 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	24 (24) 人
D 2		要経過観察	24 (24) 人
D 3		医 療 不 要	76 (76) 人
区 分 者 計			124 (124) 人
未区分者数			7 (7) 人
合 計			131 (131) 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況
過度な時間外や休日勤務を制限している

(2) 未区分の理由
ア 産休・育休 1 人
イ 新規採用 6 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 () 人

(4) 教職員の研修について

(令和 7 年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
児童生徒の内面を探り、見取る	児童・生徒のその時期における「最良のテーマ」を基に単元の終わりまでに成就したいこと、解決したいと思うことを児童生徒の思考に即して想定する単元の検討し、実践する中で、内面の見取りを行った。児童生徒の興味関心を中心に据えたことで、主体的となり「できた」実感の共有が進んだ。また、行動・表情・言葉から意欲や達成感を見取り、スモールステップでの成長過程を可視化できた。	児童生徒の行動を見取って、主体的な判断ができたが、研修を深める中で「内面を見取る」こと自体の難しさに直面した。単元における児童生徒の変容を次の学習に生かすことが重要だが、共通理解には至らなかった。

6 防災対策について

(1) 地震対策

- ア 地震・津波を想定した避難訓練を年 4 回実施。うち 1 回は非通知とし、昼休みで児童生徒が様々な場所で活動している時間に行った。また別の 1 回は、点呼の際に不明者が出たことを想定し、本部から搜索指示を出す訓練を行った。さらに、避難時の地域連携を図るため、近くの福祉施設と合同の避難訓練を行ったり、南行政センターの防災担当職員に本校の訓練の視察を依頼したりした。
- イ 小・中・高各学部でそれぞれ別日に引き渡し訓練を行った。保護者には、COC00 連絡を受けて指定時刻に本校に隣接する大駐車場に待機し、順次敷地内の指定場所に迎えに来てもらうようにした。

- ウ 全家庭へ通知して、指定日に Web171 利用体験の実施と実施状況の調査を行った。
- エ LINE オープンチャットを利用した職員への緊急連絡方法を導入し、7月末に起きたカムチャツカ沖大地震の際は、その対応について通知を行った。

(2) 防災訓練

- ア さまざまな災害の状況に対応できるよう、年間6回の避難訓練を実施し、災害が起きたときの具体的な避難の仕方を児童・生徒、職員に周知した。
- イ 学校防災計画に従い、火災予防に万全の注意を払って、非常口付近には絶対に物を置かないようにした。日ごろより、児童生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。

年度	月 日	訓 練	訓練内容	参加者数
7	4. 1	地震・津波	図上訓練	児童 生徒 約 300 人
	4. 23	地震・津波	避難経路の確認	
	5. 20	火災	火災時のグラウンドへの避難	
	7. 8	地震・津波	放送なしの2次避難	
	11. 6	地震・津波	非通知による1次、2次避難訓練	職員 約 130 人
	1. 22	地震・津波	不明者発生時の1次、2次避難訓練	

7 学校開放について

地域の社会活動、文化活動、スポーツ活動その他の生涯学習活動の振興のため施設等の開放を実施した。

(令和6年度)

開放施設	期間 日数	参加利 用者数	講 座 ・ 教 室 名	受講料	利用者負 担金(電気 料金)
体育館	1 日	6 人	A Lus do sol フットサル	—	—
運動場	12 日	779 人	白脇サッカースポーツ少年団 練習	—	—
	4 日	70 人	静岡県パラ陸上競技協会 練習	—	—
	7 日	159 人	浜松FDフライングディスク協会	—	—
	5 日	40 人	静岡県警察	—	—
計	29 日	1,054 人			

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

開放施設	期間 日数	参加利 用者数	講 座 ・ 教 室 名	受講料	利用者負 担金(電気 料金)
体育館	0 日	0 人	なし	—	—
運動場	27 日	985 人	白脇サッカースポーツ少年団 練習	—	—
	5 日	111 人	浜松FDフライングディスク協会	—	—
	17 日	199 人	静岡県警察	—	—
	3 日	40 人	浜松ドリームアローズスポーツ少年団	—	—
計	52 日	1,335 人			

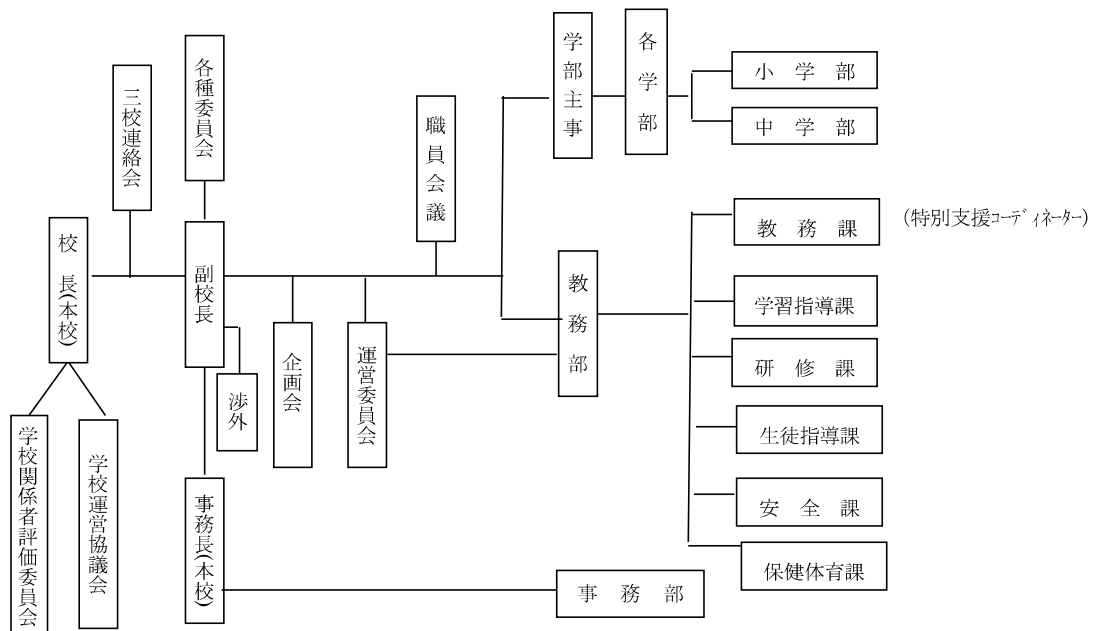
事務事業の概要（磐田分校）

1 概 況

(1) 学校の沿革

- | | | | |
|----|-----|--------|---|
| 昭和 | 30. | 4. 20 | 浜名寮内特殊学級を開設し義務教育を開始 |
| 昭和 | 36. | 7. 2 | 磐田学園内特殊学級開設 |
| 昭和 | 42. | 2. 1 | 学習指導棟(3教室)増設 |
| 昭和 | 46. | 9. 28 | 学習指導棟(2教室)増設 |
| 昭和 | 54. | 4. 1 | 養護学校義務制の発足に伴い、浜松養護学校磐田分校開設 |
| 昭和 | 56. | 3. 2 | 磐田分校校舎完成(鉄筋コンクリート造2階建 1,571.02 m ²) |
| 昭和 | 63. | 5. 2 | 創立10周年記念式典 |
| 平成 | 7. | 5. 31 | アスレチック完成 |
| 平成 | 10. | 5. 1 | 創立20周年記念式典 |
| 平成 | 20. | 4. 1 | 静岡県立学校設置条例の一部改正に伴う校名変更 |
| 平成 | 20. | 5. 30 | 創立30周年記念式典 |
| 平成 | 30. | 10. 19 | 創立40周年記念式典 |
| 平成 | 31. | 3. 14 | 磐田学園新築工事に伴うアスレチック撤去 |
| 令和 | 元. | 7. 2 | 全普通教室エアコン設置 |
| 令和 | 2. | 9. 11 | 全特別教室エアコン設置 |
| 令和 | 5. | 11. 24 | 校舎屋上防水修繕他工事(中規模改修工事) |

(2) 組織図



2 目指す学校像

本分校は、知的障害児施設「静岡県立磐田学園」に併設された知的障害特別支援学校である。在籍児童生徒がすべて施設に入所していることから、本分校では関係諸機関との連携の下、児童生徒の心のケアに重点を置きながら、学校教育目標の実現に向け以下のような学校を目指す。

(令和7年度)

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

- (1) 児童生徒が夢と希望を持って楽しく学ぶ学校
- (2) 命と人権を大切に作る学校
- (3) 家庭、地域、磐田学園、児童相談所等と協働して支援する学校
- (4) 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和7年度の取組目標への評価及び成果と課題

(A:十分目標を達成することができた B:おおむね目標を達成することができた C:あまり目標を達成することができなかった)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア <授業> 児童生徒が夢と希望を持って楽しく学ぶ学校				
児童生徒が夢中になれる学校生活づくり	年間計画の作成にあたって、時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	AB 評価 100% ・生活単元学習のテーマや月ごとに提示する目標に対し、夢中になって取り組む姿が多く見られている。	A	生活単元学習、作業学習が学校生活の軸となっている。児童生徒の興味から解決したい課題を見つけ、新たな学びにつなげていきたい。
個別最適な学びの充実	個の学びを見据えた目標設定のもと、学ぶ楽しさを体験しながら、一人一人が成長し自己肯定感が高まる授業づくりを実践できている。	AB 評価 100% ・個別の検討期間や日々の呼びかけ、あらわれの共有により、個々実態に即した学習目標・支援が充実した。	A	分校に通うことを受け入れられない生徒や、支援の方法に迷う生徒もいる。担当だけでなく学部・学校単位で課題共有、検討をしていく。また、随時の見直しを継続して呼びかける。
	学ぶ楽しさを体験・実感できる授業づくり	AB 評価 100% ・校外学習や、課題を達成できる経験などで学ぶ楽しさを実感できる授業作りを行った。	A	特に分校として大事にしていきたい課題である。経験不足を補い、成功体験から自己肯定感の向上へつなげていく。
協働的な学びの充実	集団で取り組む良さを生かした授業作りを実践している。	AB 評価 100% ・集団での学びにより、協力、相談等た徒同士で活動を進める場面があった。ルール、約束への意識向上も見られた。	A	グルーピング、活動内容の工夫を検討する。教員との対話の中で自分の気持ちを言えることが増えた。集団参加の難しい生徒の個別の配慮を継続したい。
自立活動の充実	流れ図の活用からの確な指導目	AB 評価 95% ・意見共有を容易にするため、	A	流れ図学習会により理解が深まっている。実際の指導について

	標を導き出し、教育活動全体を通じた指導の中で効果的な指導ができています。	流れ図検討に Canva の使用を推奨した。 ・OT, PT, ST 相談会により、より具体的な目標設定や支援を行うことができた。		は、学校生活全般にちりばめられており、成果が見られている。今後は評価の場や方法をさらに明確にしていきたい。
生活単元学習、作業学習の充実	最良のテーマを基に、成就したいことは何かを明確にした授業づくりをしている。授業や単元ごとに個々の学びを共有できている。	AB 評価 96% ・校内研修として取り組んだ。あらかわの見取りや共有を日々行うことで、達成可能な課題やそのための働きかけを見出すことができた。	A	話し合いは毎日なされているが、それを記録するとなると負担が大きいという意見が出ている。何につなげるための記録かを整理し、授業改善と業務改善を両立させていきたい。
本に親しむ児童生徒の育成	児童生徒が図書に関心を持ち、図書貸し出し数が増加している。	AB 評価 100% ・図書室整備、新書購入、図書イベントなどで図書室への関心は高まり、貸出数は大きく増加している。	A	県指定の研究成果が出ている。児童生徒の生活の充実にもつながるという意見も多いため、取組を継続するための業務の整理が必要となる。
健康指導の充実	児童生徒が主体的に健康を意識して生活できるように指導している。	AB 評価 100% ・外部講師による保健授業、単元毎の補助運動の推進を行った。学んだ手洗いを生活に生かす、体の動かし方をイメージして運動するなど、児童生徒の生活に生かすことができています。	A	補助運動の種類や方法については専門的な知識が必要となるため、今後の授業づくりのヒントとなるよう領域ごとにまとめている。
イ <安全・安心> 命と人権を大切に作る学校				
心の安全確保	児童生徒にとって楽しい学校となっている。学校が児童生徒の居場所(安心する場)となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。	AB 評価 100% ・学級活動を活用して、児童生徒のやりたいことをみんなで実現することに取り組んだ。学習時も能力に合った内容、安心できるグルーピングを行った。 ・人権授業や職員の人権チェックなどの取組により、発言や態度への意識を高めた。	A	分校が児童生徒の大切な居場所となっていると考える。児童生徒同士のトラブルもあったが、落ち着いているときには、どのような関わりをすべきかを多くの児童生徒が理解できていた。引き続き、意図的な取組を行っていく。
相談体制づくり	校内で児童生徒が相談しやすい場ができています。	AB 評価 100% ・学園と共同の取組で各月の個別聞き取りを行った。困っていること、被暴力についてなど早期に表出できる場面となった。 ・職員研修で子どもアドボカシーについての学習をしたため、今後を生かしていく。	A	級外職員の聞き取りだけでなく、担任が聞き取りを行う月があったことが有効であった。今後は更に児童生徒から「相談したい」という表出があるように、相談カード(仮)の活用を進めていく。

安全・快適な環境づくり	教職員が施設を効果的に活用するために、廃棄・片付け・清掃に自ら取り組んでいる。	AB 評価 85% ・年 2 回の職員清掃で不用品廃棄を進めた。 ・月毎の安全点検ではケガや事故につながる事例を挙げ環境整備への意識を高めた。	B	校舎外の雑草、落ち葉等の片付けについて全体で取組む時間が取りにくく、気づいた職員が対応した。次年度は職員作業の回数を増やし、計画的に環境整備を行えるようにしていく。
緊急時の対応力強化	学校は危機管理意識と事故防止のための想像力の高まる取組を実施できている。	AB 評価 100% ・防災マニュアルを新書式に整え、内容を見直しながらの避難訓練を行った。より具体的な災害の想定により、想像力の高まる訓練につながった。	A	次年度も想定を具体的にすることで課題を明確にし、PDCA を繰り返し、わかりやすいマニュアル作りを目指す。
ウ <協 働> 家庭、地域、磐田学園、児童相談所と協働して支援する学校				
家庭との連携	学校は無理のない範囲で児童生徒の教育、成長に関する意見交換ができています。	AB 評価 100% ・直接的な意見交換は難しいが、学部だよりのホームページ掲載や児相を通した協力依頼など無理のない範囲でできた。	A	児童相談所を通じて、保護者の実情に合わせた投げ掛けを続ける。
地域とのつながり充実	児童生徒が地域の方と関わることを楽しんだり、貢献し感謝されることを喜んだりする体験ができる取組ができています。	AB 評価 100% ・自治会や老人会、地域商店、小学校、中学校と様々な交流を行った。学年毎に、楽しむ、学ぶ、ともに取り組む、貢献する、などの体験ができています。	A	交流対象の広がりもあったが、同じ方との交流を重ねることで関係の深まりがあった。学校近隣の製茶店や老人会など、分校の教育活動を理解して協力して下さる方が増えている。
磐田学園・児童相談所との連携	児童生徒が安心して生活できる環境が整っている。 生徒の夢実現をサポートできる進路指導ができています。	AB 評価 100% ・連絡会、個別検討会、移行支援会議等で、連携はできている。 ・磐田学園からは学校の様子をもっと細かく知りたい、との要望が出ている。	A	進路については、本人に選択肢や具体的な希望をもたせることが分校の役割であり課題である。また児童相談所、保護者へ向けて実際の手順、決まり事を繰り返し伝えていく必要がある。
発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	AB 評価 90% ・学校便り発行、ホームページ更新を行った。学校だよりでは児相、学園職員、保護者を対象として、分校の教育や進路、地域連携について伝えた。ホームページではギャラリーと称して児童生徒の作品を頻繁にアップするようにした。	A	学校便りは年度の初めに計画を立てていたが、決まった時期に発行できなかったり、途中で別のテーマが入ったりすることがあった。次年度の効果的な活用については再度検討したい。HP は月ごとに更新の担当を割り振ることでコンスタントな更新を心がける。

エ <チーム> 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校				
コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	AB 評価 95% ・「夢を語る会」や話し方のポイントなどの意識付けを行っている。職員から管理職にいろいろな意見が提案されるが、前向きで建設的なものが多い。	A	小学部で「話し合いができる場が少なかった」との意見が出ている。学習グループ単位では話し合いができていたが、定期的な学部での意見交換の場を作っていきたい。
働き方改革の推進	週に複数回、空き時間を確保	・休みの教職員が複数人いたり、同じ学級に立て続けに転入生があったりなど、いろいろな理由で空き時間確保が難しい時期があった。	C	学級により空き時間の取りにくさがある。各学部を中心に工夫がなされていたが、級外の授業持ち時間が多くなり、時間外勤務につながってしまった。
	時間外 45H/月以上連続しない	・時間外勤務 45 時間を超えたことのある職員が人、内 1 人は 2 回超えてしまっている。研修や部主事の業務など理由は明確ではあり連続はしていない。	A	部主事が年度初めの勤務は時間外が多くなった。業務に見通しをもたせる時期ではあるが、中でも施錠時刻の徹底により時間外勤務の削減に努めたい。
倫理観の向上	不祥事 0 件	・交通事故、コンプライアンス違反などはなかった。	A	活気のある職場であり教職員の業務に対する意識も高い。「管理職からの定期的な呼びかけが意識の継続に有効」との意見も出ているため掲示板、職員打合わせ等で呼びかけを続けていく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令和 7 年度	・本校の児童生徒は、全員が併置している磐田学園に入所している。 ・学園入所に至るまでの経験からの無気力さ、攻撃性などを抱える児童生徒も多く、「今の充実」を目標に掲げ、自らの力で今の生活を豊かにしていける知識・技能の習得を目指した。また、将来に希望を持って次の進路先に羽ばたくことを目標とした進路指導や関係機関との連携を目指した。 ・磐田学園とは、定期的に児童生徒の目標や課題を確認し合い、児童生徒の指導にあたっている。また、磐田学園とともに児童相談所など関係機関とも関係を築き、児童生徒への支援や卒業後の進路についても連携を図っている。	・磐田学園との日々の情報交換を丁寧に行い、分校での行動が学園での安定した生活につながるようにした。図書室の本の貸出をスタートさせ、学園での余暇の充実につながるよう学園との連携を行った。 ・子どもアドボカシーについて、職員研修を行い、磐田学園にも紹介した。子ども達の意見を尊重し表出を促すことで、子ども自身が自らの生活をよりよいものにしていくための具体案を発信していけるよう機会作りを行った。 ・二学期の学校運営協議会では、一部の児童生徒が委員と対話する場面を作り「私の夢」について語った。委員が分校生徒について理解を深め、「〇〇を

		してみてもどうか」「〇〇を紹介できる」など、夢を後押しする提案をいただくことができた。 ・磐田分校に在籍する期間は、子どもの安全が確保でき、自立に向けての力を身につけて、次の居住場所へと向かっていく準備期間と捉えている。支援級判定の児童生徒が多く、知的の教育課程の中で検定本の学習をしていることも少なくない。磐田分校に在籍する期間が長くなるのであれば、その間の適正な学びの機会の保障を考える必要がある。どの子どもも夢をもって次の居住へとつながっていくために、更に磐田学園、児童相談所との話し合いを深めていきたい。
--	--	--

5 教職員について

(1) 異動状況

区 分		本務職員							臨時職員		会計年度任用職員	合 計
		副校長	教 頭	教 諭	養護教諭	主 任	主 事	小 計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤嘱託員	
磐田分校	転出者			2				2				2
	退職者						1	1		2		3
	転入者			3		1		4	1	1		6
	新任者											0
	再任用者											0
	差引増減			1		1	△1	1	1	△1		1

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区 分	種 別	本務職員					臨時職員		会計年度任用職員	学校医	小計	合計
		副校長	教諭	養護教諭	主任	小計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤労務職員			
磐田分校	男		8		1	9				6	6	15
	女	1	11	1		13	2	1	1	1	5	18
	計	1	19	1	1	22	2	1	1	7	11	33

イ 職員の年齢

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	0	
30歳以上40歳未満	11	
40歳以上50歳未満	8	
50歳以上56歳未満	1	
56歳以上61歳未満	2	
61歳以上	0	
計	22	平均年齢 41.3歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

	令和7年度	令和8年度
取組と成果及び課題	・定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努めた。再検査等が必要な者には早めに受診することを働きかけた。 ・職員安全衛生委員会を毎月開催し、学校職員の労働環境について話し合ったり、校内の巡視を行ったりして労働環境の改善に取り組んだ。また、健康管理医から定期健康診断等の結果について分析や助言をいただき職員の健康状態把握に努めた。 ・健康管理医が毎年来校されることで、地域の感染症流行情報を得ることができ、職員への感染症予防呼びかけの機会となった。ストレスチェックを実施して、自己のストレス度管理の促進を図った。 ・学校内の相談員の周知により、7回ほど相談があった。多忙さ、職員同士の意見の食い違いなど、困りごとへの対応を職員と管理職の話し合いのもと進めることができた。	・昨年度同様、定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努める。職員安全衛生委員会の中で、再検査等の進捗を確かめ、時には健康管理医の助言をいただきながら個々への言葉かけをしていく。 ・職員安全衛生委員会では地域の感染症流行情報、また磐田学園との日々の連絡の中では学園内の感染症課題について共有を行う。感染症予防については、昨年度よりマスク着用の徹底を、推奨という形に変えているが状況によってはマスク着用の協力を職員に伝えるようにする。 ・働きやすさについて、昨年度一部職員の時間外勤務時間過多、職員同士の摩擦などの課題、があった。今年度は19時以降の勤務を減らすため口頭連絡から希望票を使つての申請に代える、相談員側から気になる職員への積極的言葉かけを行うようにする、などの対応をしていく。

イ 健康管理状況

(ア) 7年度受診状況

区 分	内 容	(1) 未受診の理由 産休・育休 0人

受診状況	受診者数 21 人 職員数 21 人
受診率	100 %
県平均受診率	100 %

(イ) 8 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	3（3）人
D 2		要経過観察	11（11）人
D 3		医 療 不 要	8（8）人
区 分 者 計			22（22）人
未区分者数			0 人
合 計			22（22）人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 0 人
イ 新規採用 0 人
ウ 自己都合による未受診 0 人
エ その他 () 0 人

(4) 教職員の研修について

(令和 7 年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
児童生徒が、夢中になって活動に取り組むための授業作りを行う。	・子どもの見取りを共有しながら行う、子ども主体の単元・授業計画づくりに取り組んだ。 ・児童生徒の学びの過程や内面の見取りに焦点を当てた授業づくりと授業改善を繰り返すことで、児童生徒が夢中になって取り組む姿を引き出す。特に評価や児童生徒の思考や気持ちの変化に焦点をあて、みとったものを職員が共有することが、次の授業作りにつながり、児童生徒が夢中になって取り組む姿をさらに引き出すことができた。 ・小学部では磐田市の名産として「お茶博士になろう」、中学部ではバザーに向けての作	・自己選択・自己決定で進んでいく授業づくり。 ・授業づくりのポイントがちりばめられた単元カードの書式作成 ・非認知能力の育成と評価方法

	業学習でそれぞれ授業研究を行った。その時期の子ども達の生活の軸となり、その学びから学年外の教員、地域の人々、お世話になっている方々と積極的につながっていくことができた。	
--	--	--

6 防災対策について

(1) 地震等の対策

ア 災害時における児童生徒の生命等の安全を守るため、速やかに併設施設(磐田学園)との連携を行う。それぞれの役割の明確化を行い、合同の自主防災組織とは別に、「磐田分校危機管理マニュアル」を作成し直した。災害発生の際には安全に引き渡しを行うこと、その後の学校再開をより早く行うことを分校の役割としている。令和7年度は新マニュアルについて、非常災害訓練を活用し見直し改正を進めた。

イ 災害の恐ろしさや自分の命を守ること、友達や先生の命を守ること等の大切さとその方法について、避難訓練や起震車体験、災害に関する調べ学習を通じ児童生徒に繰り返し指導している。

ウ 児童生徒全員分の1週間分の飲料水・非常食糧・毛布・着替え等については磐田学園で用意し保管している。職員分は各自で用意するよう呼びかけを行った。

(2) 防災訓練

学校防災計画に従い、児童生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。訓練前には目標を児童生徒に伝えけるとともに、命を守るための行動確認を繰り返し行う。訓練後は児童生徒には取組の振り返りを行い、教職員はアンケートで振り返り及び問題点の洗い出しを行っている。

年度	月日	訓練	訓練内容	参加者数
7	4.17	地震想定避難訓練	避難経路や新たな避難場所の確認 避難の約束の確認	48人
	6.12	火災想定避難訓練	避難経路や火災時の避難方法の確認 学園・学校間の連絡方法を確認 消防署員との消火訓練	47人
	9.18	地震、火災想定 避難訓練	避難経路や方法の確認 学園への引き渡し	46人
	11.14	火災想定	避難方法の確認 怪我人の救護、搬送訓練	48人
	8.2.10	予告なし避難訓練(地震、火災)	児童生徒、教職員の避難の判断方法の確認 児童生徒の安全確認方法の確認	48人

7 学校開放について

実施していない。

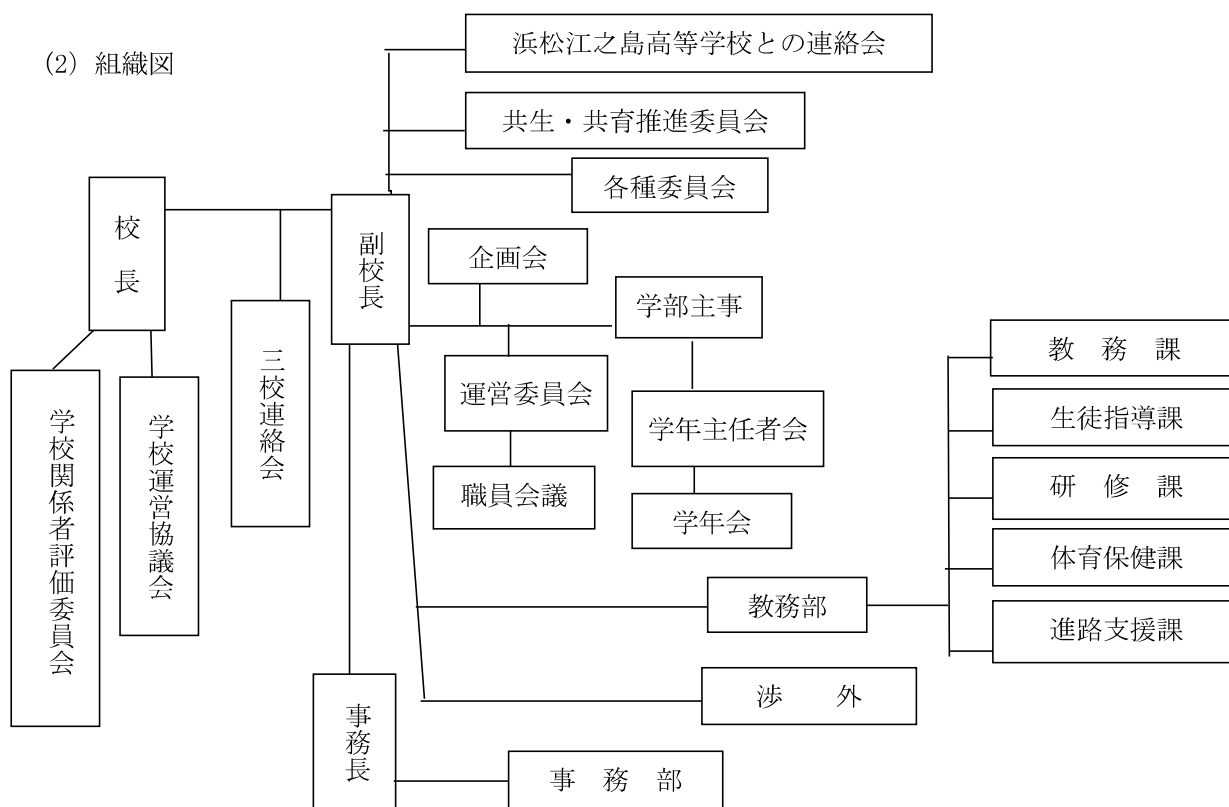
事務事業の概要(江之島分校)

1 概況

(1) 学校の沿革

令和 7.5.20	浜松特別支援学校江之島分校設置準備委員会発足
令和 8.4.1	静岡県立浜松江之島高等学校敷地内に静岡県立浜松特別支援学校江之島分校 (高等部) 開校 入学定員 16 人
令和 8.4.7	開校式、入学式 入学者 15 人 (2 学級)

(2) 組織図



2 目指す学校像

本分校は、県立浜松江之島高等学校の敷地内にある高等部単独の分校である。知的障害の生徒を対象に、「職業生活・家庭生活・社会生活において自立する人」「自他を大切にする人」「ルールを守り未来社会を楽しんで生き抜く人」を育て、職業教育の充実や高校、地域との共生・共育を推進しながら、学校教育目標の実現に向け、以下のような学校を目指す。

(令和8年度)

自身の強みを磨き、夢と希望を持って社会参加できる人を育てる

- (1) ＜授業＞ 確かな学びと成長を実現する学校
- (2) ＜安全・安心＞ 命と人権を大切にする学校
- (3) ＜協働＞ 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校
- (4) ＜チーム＞ 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等
該当なし

4 監査対象期間における特色ある取組
該当なし

5 教職員について

(1) 異動状況

		本務職員						臨時職員		会計年度 任用職員	合 計
		副 校 長	教 諭	養 護 教 諭	主 任	主 事	小 計	任 期 付 教 諭	臨 時 教 諭	非 常 勤 労 務 職 員	
江之島分校	転出者										
	退職者										
	転入者										
	新任者	1	6	1			8			1	9
	再任用者										
	差 引 増 減	1	6	1			8			1	9

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区 分	性 別	本務職員					臨時職員		会計年度 任用職員	学校医	合 計
		副校長	教諭	養護 教諭	主任	小計	任期付 教諭	臨時 教諭	非常勤 労務職員		
城北分校	男		3			3				4	7
	女	1	3	1		5			1		6
	計	1	6	1		8			1	4	13

イ 職員の年齢

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0	
20歳以上30歳未満	0	
30歳以上40歳未満	2	
40歳以上50歳未満	4	
50歳以上56歳未満	1	
56歳以上61歳未満	1	

61歳以上	0	
計	8	平均年齢 44.4歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

	令和7年度	令和8年度
取組と成果及び課題	該当なし	・定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努める。 ・教職員の健康管理への意識の高揚を図るため、健康管理医による講話を開催する。 ・腰痛健診、腰痛予防講座を実施して、自己管理の促進を図る。 ・職員安全衛生委員会を開催し、教職員の健康診断結果や保健室の利用状況等について協議する。 ・メンタルヘルスチェックを実施して、精神面での自己管理の促進を図る。

イ 健康管理状況

(ア) 7年度受診状況 該当なし

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 人 職 員 数 人
受 診 率	%
県平均受診率	%

(1) 未受診の理由
人 産休・育休

(イ) 8年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B2		要経過観察	人
C1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C2		要経過観察	人
D1	平常の勤務でよい。	要 治 療	人
D2		要経過観察	1 (1) 人
D3		医 療 不 要	7 (7) 人

(1) 管理区分A～C2該当者
に対する措置状況
過度な時間外や休日勤務
を制限している

(2) 未区分の理由
ア 産休・育休 人
イ 新規採用 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他

区 分 者 計	8 (8) 人
未 区 分 者 数	0 人
合 計	8 (8) 人

() 人

(4) 教職員の研修について

(令和8年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
自分の強みを見つけ、互いに認め合う作業学習(仮)	・3年計画で研修を行っていく。 ・開校初年度の今年は、生徒自身が自分の強みを知り、確かな学びにつなげられるよう、自己理解を深められる授業づくりを行う。 ・授業展開の「導入」に視点を置き、生徒達が自身の強みを生かしながら主体となって取り組める授業づくりに取り組む。 ・生徒のあらわれを日々記録を取り、次時の授業に生かせるようクラスルームを活用する。教員同士の共通理解のルールとする。	

6 防災対策について

(1) 地震対策

ア 教育活動全領域の中で、防災意識の高揚を図るとともに、災害に際した非常対策を立て、全職員・生徒への周知徹底に努める。

イ 生徒の毛布・簡易トイレ等を準備した。

ウ 防災週間に、災害用伝言ダイヤル(171)を利用した生徒の安否情報等録音・再生の訓練を保護者・教職員を対象に実施する。

(2) 防災訓練

学校防災計画に従い、火災予防に万全の注意を払い、生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。

7 学校開放について

実施していない。

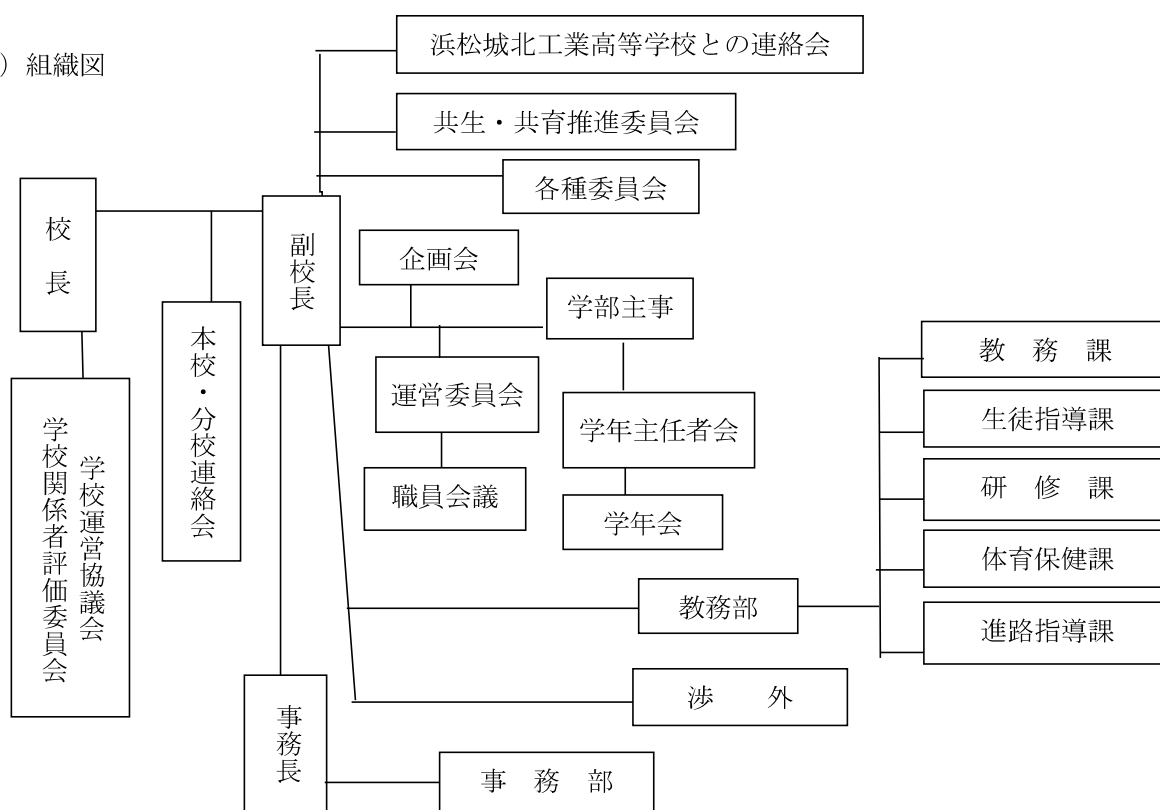
事務事業の概要(城北分校)

1 概況

(1) 学校の沿革

平成 22. 5. 26	浜松特別支援学校分校設置準備委員会発足
平成 23. 4. 1	静岡県立浜松城北工業高等学校内（浜松市中区住吉五丁目 16 番 1 号）に 静岡県立浜松特別支援学校城北分校(高等部)開校 入学定員 18 人
平成 23. 4. 6	開校式及び第 1 回入学式を举行 入学生 17 人(2 学級)
平成 26. 3. 11	第 1 回卒業式举行 卒業生 15 人(2 学級)
平成 26. 3. 30	駐輪場設置
平成 31. 2. 20	全普通教室エアコン設置
令和 2. 10. 13	全特別教室エアコン設置
令和 3. 11. 12	創立 10 周年
令和 6. 4. 1	入学定員 27 人(3 学級)
令和 8. 4. 1	浜北特別支援学校に本校移管

(2) 組織図



2 目指す学校像

本分校は、県立浜松城北工業高等学校の敷地内にある高等部単独の分校である。知的障害の生徒を対象に、将来の生活に必要な力を「社会生活を支える力」「豊かな生活を支える力」「職業生活を支える力」の3点で捉え、職業教育の充実や高校、地域との共生・共育を推進しながら、学校教育目標の実現に向け、以下のような学校を目指す。

(令和7年度)

共生社会の中で「自分らしく力強く生きる人」を育てる

(城北分校)

自分の良さや個性を発揮して地域で学び、共生社会の一員として職業的に自立する人を育てる。

- (1) 個別最適な学びと協働的学びを実現する学校
- (2) 命と人権を大切にする学校
- (3) 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校
- (4) 教職員が夢をもって学校づくりに参画し働きがいを感じる学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

ア <授業> 個別最適な学びと協働的学びを実現する

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校				
生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	95.8% A : 25% B : 70.8% C : 4.2% D : 0% 生徒 91.3% A : 52.2% B : 39.1% C : 4.3% D : 4.4%	A	学校生活のテーマにそって取り組むべきことを明確化、焦点化することができた。職員がまずそれぞれの立場から自分事として考え、チームとして意見をすり合わせていくことで、授業づくり、雰囲気づくりをより充実させていきたい。 生徒は、大半が「学校生活が充実している」と回答したが、学校生活に不満がある、人間関係で問題を抱えていると回答した生徒も少数いた。自己理解し、将来に見通しをもって学校生活を楽しめる工夫や進路指導ができると良い。
個別最適な学びの充実	学びのプロセスと個々の成長を想定した支援目標及び個別の指導計画に基づいた指導ができている。	95.8% A : 20.8% B : 75% C : 4.2% D : 0%	A	支援目標、指導計画の目標設定では、個別最適な学びを考えられている。定員増となり、実態幅の広がりに応じた個別最適な学びの充実のためのプロセスを検討していく必要がある。
協働的な学びの充実	集団で取り組む良さを生かした授業づくりを実践している。	95.9% A : 29.2% B : 66.7% C : 4.1% D : 0%	A	効果的な集団での授業づくりが概ねできた。集団になることで、生徒の姿勢、態度など、行き届かない部分もできているので、メリハリのある授業をめざしていきたい。
自立活動の充実	教育支援計画を基にアセスメントを行い、的確な指導目標を導き、教育活動全体を通じた指導の中で効果的な学習ができる。	91.7% A : 16.7% B : 75% C : 8.3% D : 0%	A	教育支援計画を基にアセスメントをしてきたが、一人一人にじっくり時間をかける余裕がなく、全員が的確な目標が導き出せたかは不安が残る。職員の自立活動への理解や目標設定の考え方等、研修を続け、共通理解のもと、進めていきたい。

作業学習の充実	達成したい目標とは何かを明確にした授業づくりをしている。 授業や单元ごとに個々の学びを共有できている。	95.8% A : 25% B : 70.8% C : 4.2% D : 0% 保護者 95.4% A : 58.5% B : 36.9% C : 4.6% D : 0%	A	目標を明確にした授業づくりはできた。しかし、販売会に向けた作業になっている傾向がある。単元計画や作業全体としてのねらいたい目標を明確にし、班長会から各班へ共有していく必要がある。また、個々の学び過程や学びの自己理解、他者評価の積み重ねについて工夫した授業づくりに努めていきたい。 保護者から、働く力や気持ちが育ってきたと感じたという評価が高かった。
ICT 活用の促進	ICTを活用した授業づくりをしている。	91.7% A : 16.7% B : 75% C : 8.3% D : 0%	A	個人端末の仕様の違い、職員の苦手意識などから、活用の広がりはなかなかみられない。研修や全体として活用していく体制づくりをすることで活用の広がりにつなげていきたい。
健康指導、性の指導の充実	生徒の実態に応じた健康に関する指導ができています。	95.8% A : 20.8% B : 75% C : 4.2% D : 0%	A	各学年の学習内容の共有や、3年間をとおとしての学習の系統性を検討していけると良い。
道徳指導の充実	各教科等で道徳指導の観点を押さえた指導を行っている。	95.8% A : 8.3% B : 87.5% C : 4.2% D : 0%	A	道徳的観点があることで、道徳的見方を考えるきっかけになっていた。全ての授業において観点を抑えた指導ができたわけではなかった。指導内容、観点の職員間の共有が必要であった。

イ <安全> 命を守り、人権を尊重した、安全で安心な学校

命を守る意識と行動力の向上	COC00 を活用した安否確認に慣れ、開封率・回答率 100%を達成している。 生徒自身の意識が高まる働き掛けや指導ができています。	95.9% A : 16.7% B : 79.2% C : 4.1% D : 0%	A	事前通知有りのCOC00を活用した安否確認の第1次開封率は94.2%であった。「必ず開封」を年に何度か呼びかけていく。 校内での避難訓練にも取り組んだ。日常生活している教室内の危険個所について生徒自身が考える場を設けた。安全な避難、浜松城北工業高校との連携等について検討していく。
安全・快適な環境づくり	安全や事故防止を意識した教育活動及び環境設定に取り組んでいる。	100% A : 33.3% B : 66.7% C : 0% D : 0%	A	未然に事故防止ができるよう、引き続き計画段階での危険予想と安全対策等に取り組んでいきたい。
事故防止の強化	けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行っている。	95.8% A : 37.5% B : 58.3% C : 4.2% D : 0%	A	各学年、実態に応じた配慮や事故防止への啓発に取り組むことができた。学校運営で、事故防止の強化のために取り組んでいることを、職員全体に伝えていきたい。

人権を守る意識と行動力の向上	学校が生徒の居場所(安心する場)となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。いじめアンケートを実施し、アンケート結果に応じて対応をしている。	91.7% A : 37.5% B : 54.2% C : 8.3% D : 0% 保護者 96.9% A : 60% B : 36.9% C : 3.1% D : 0%	A	生徒の呼び方の点で、職員全体の意識を高めたい。職員一人一人の感覚の違いをなくし、職員全体で共通した、生活年齢に応じた支援・指導や生徒の言動へのアプローチをしていく必要がある。 いじめアンケートを実施し、気になる点に応じて聞き取りをしたり、面談をしたりして対応した。また、家庭とも情報共有し、連携して対応することができた。 保護者から、相談に適切に対応できていたと高い評価が得られた。
相談体制づくり	校内で生徒が相談しやすくなるために面談の機会を設定している。	100% A : 41.7% B : 58.3% C : 0% D : 0% 生徒 97.1% A : 63.8% B : 34.8% C : 0% D : 1.4%	A	希望制で管理職面談を行った。また、相談相手を自由に選択して相談できる仕組みをつくった。年度の早い時期から取り組みると良かった。 生徒は、大半が「いつも相談にのってくれる」「声を掛ければ代替相談にのってくれる」と回答した。相談できないと回答した生徒もいたので、誰もが相談しやすい体制をつくっていけると良い。

ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校

発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	100% A : 29.2% B : 70.8% C : 0% D : 0% 保護者 98.5% A : 26.2% B : 72.3% C : 1.5% D : 0%	A	ホームページ、Instagram、高校の電子掲示板等で情報を発信することに努めた。特に中学校の進路指導につながる啓発活動や実践を増やしていけると良い。 保護者からは、学校の様子がだいたい分かったという評価が大半であった。
進路指導の充実	生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にした進路指導を行っている。	100% A : 20.8% B : 79.2% C : 0% D : 0% 保護者 90.8% A : 38.5% B : 52.3% C : 6.1% D : 3.1%	A	本人・保護者の「願い」を大切にした進路指導ができた。今年度より1年生の実習が1回となり、ここを逃すと経験せずに進級することが起こるため、今後、最適な進路指導の方法について、検討する。 保護者から、生徒の願いや良さが大切にされた学校生活を送ることが概ねできていたと評価が得られた。企業見学や企業以外の進路先情報のニーズもあるので、個に応じた進路指導の更なる充実を図りたい。
センター的機能の充実	高等学校のニーズに対応するため、教育相談、研修支援等への依頼に応じている。	100% A : 45.8% B : 54.2% C : 0% D : 0%	A	ニーズに応じて教育相談、研修等に出向いた。積極的に相談を持ち掛けてほしいが、日常の業務もあるため、あまりに多数であると難しい。同じ敷地内の高校との連携は深めていきたい。

エ <チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	87.5% A : 25% B : 62.5% C : 12.5% D : 0%	A	それぞれの業務を担当に任せた後の見届け、他との共有がなされていないことがあった。それぞれの思いの違い、遠慮等からチームに共有されないこともあった。風通しの良い環境、チーム作りに努めたい。
働き方改革の推進	週に複数回、空き時間を確保している。 時間外勤務 45 H/月以上が連続する職員はいない。	91.6% A : 33.3% B : 58.4% C : 8.3% D : 0%	A	空き時間の確保が難しかったり、職員が欠け、体制的に難しかったりするところもあった。グルーピングの工夫等、改善策を見出していく。 月 45 時間以上が連続する職員はいなかった。
倫理観の向上	不祥事 0 件	100% A : 83.3% B : 16.7% C : 0% D : 0%	A	不祥事は 0 件であった。 交通事故加害 1 件（軽微な衝突）

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和 7 年度	・技能検定については、外部専門家を招き学期ごと喫茶サービスの学習に取り組んだ。サービス班の生徒が校内で検定を行った。 ・学校間交流として、同敷地内にある浜松城北工業高校との行事等を合同で開催した。	・喫茶サービスの学習を行ったサービス班生徒に技能検定を実施した。目標をもって学習に取り組み、技能検定では、学習の成果を確認したり、達成感を味わったりすることができた。また、オークラアクトシティホテル浜松を会場とした技能検定を実施し、浜松特別支援学校の生徒も参加した。他校の生徒が参加することで、お互いの技能を認め合う場とすることもできた。今後は、人と接する楽しさを感じ、喫茶サービスで身に付けた技能を日常生活で確かな力として実践できるようにしていきたい。 ・対面式、部活動の壮行会、体育大会、文化祭、球技大会などを合同で行った。城北分校の生徒全員を 1 クラスとして、浜松城北工業高校のクラス対抗に参加をして競技を行ったり、展示・販売を行ったりした。さらに授業交流などを行うことで、同年代の生徒同士の自然なコミュニケーションがとれるようになった。

5 教職員について

(1) 異動状況

	本務職員	臨時職員	会計年度 任用職員	合 計
--	------	------	--------------	--------

		副校長	教諭	養護教諭	主任	主事	小計	任期付教諭	臨時教諭	非常勤労務職員	
城北分校	転出者		2				2	1	1		4
	退職者										
	転入者		3				3				3
	新任者										
	再任用者										
	差引増減		1				1	-1	-1		-1

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区 分	性 別	本務職員					臨時職員		会計年度 任用職員	学校医	合 計
		副校長	教諭	養護 教諭	主任	小計	任期付 教諭	臨時 教諭	非常勤 労務職員		
城北分校	男		10			10				4	14
	女	1	13	1		15		1	1	2	19
	計	1	23	1		25		1	1	6	33

イ 職員の年齢

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	3	
30歳以上40歳未満	10	
40歳以上50歳未満	7	
50歳以上56歳未満	4	
56歳以上61歳未満	0	
61歳以上	1	
計	25	平均年齢 40.0歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

	令和7年度	令和8年度
取組と成果	・定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底のため、こまめに呼び掛けをした。再検査の教職員が多くいたが、期日を守り受診することができていた。 ・職員安全衛生委員会で教職員の様子、地域の	・定期健康診断・生活習慣病検診の受診の徹底を図り、疾病の早期発見に努める。 ・教職員の健康管理への意識の高揚を図るため、健康管理医による講話を開催する。 ・腰痛健診、腰痛予防講座を実施して、自己管理

及び課題	感染症の状況等を協議した。健康管理医から感染症の情報や健康に関するアドバイスをいただき、職員に情報発信をして健康管理に努めることができた。 ・メンタルヘルスチェックの実施、メンタルヘルスに関する情報の発信、相談受付、日頃の職員への目配りに努めてきた。大きくメンタルを崩す職員はいなかった。	の促進を図る。 ・職員安全衛生委員会を開催し、教職員の健康診断結果や保健室の利用状況等について協議する。 ・メンタルヘルスチェックを実施して、精神面での自己管理の促進を図る。
------	--	--

イ 健康管理状況

(ア) 7年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 25 人 職 員 数 25 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由
産休・育休 0 人

(イ) 8年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	6（6）人
D 2		要経過観察	8（8）人
D 3		医 療 不 要	11（11）人
区 分 者 計			25（25）人
未区分者数			0 人
合 計			25（25）人

(1) 管理区分A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由
 ア 産休・育休 0 人
 イ 新規採用 0 人
 ウ 自己都合による未受診 0 人
 エ その他 () 0 人

(4) 教職員の研修について

(令和7年度)

目 的	研修内容及び成果	課 題
-----	----------	-----

自分たちで考え、判断し、行動できる姿を目指して ～生徒の自己理解を深めるための授業づくり～	作業学習（委託作業）を中心として、目標を設定し、目標達成のための方策を計画、実行するプロセスを繰り返すなかで、生徒が自分自身への自己理解を深めることを目指した。 また、職業科の授業のなかで、様々な視点で自己理解を深める取り組みを行った。 1年生では、自己理解シートを活用し、自分の得意と苦手を整理した。 2年生では、ドリームマップを活用して、自分の将来の希望について視覚化した。 3年生では、セルフアドボカシーをテーマに、必要な支援を自分から求められるスキルを高めた。 成果として、生徒たちの自己評価と教師や実習先からの他者評価とのギャップが小さくなり、活動の振り返りについての記述が具体的になってきた。	得意や不得意についての記述を求めると、不得意については具体的に書ける生徒が多いが、得意を具体的に書ける生徒が少なかった。 また、得意や不得意についての自己理解だけでは、職場実習や地域委託作業への、主体的な取り組みを引き出すことが難しかった。 生徒自身が自分のやりがいを感じ、活動の目的と結びつけるための研修が必要だと思われる。
--	--	--

6 防災対策について

(1) 地震対策

ア 教育活動全領域の中で、防災意識の高揚を図るとともに、災害に際した非常対策を立て、全職員・生徒への周知徹底に努めた。

イ 生徒の非常用食料・毛布・簡易トイレ等を準備した。

ウ 防災週間に、COCOO を利用した生徒の安否確認の訓練を保護者を対象に実施した。

(2) 防災訓練

学校防災計画に従い、火災予防に万全の注意を払い、生徒の安全と校舎その他施設設備の保全に努めている。

年度	月 日	訓 練	訓 練 内 容	参加者数
7	4・22	地震避難訓練（合同）	地震発生時の1次避難、2次避難の仕方 避難経路の確認	71 人 (880 人)
	8・29	地震避難訓練（合同）	地震（南海トラフ地震）を想定した総合 防災訓練	71 人 (880 人)
	12・19	地震・火災避難訓練 （合同）	地震及び火災発生時の安全な避難方法	71 人 (880 人)

7 学校開放について

実施していない。

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条、第6条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行令 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第4条、第7条～第9条、第13条～第15条、第23条、第26条～第28条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱

学 校 施 設 の 概 要 （ 本 校 ）

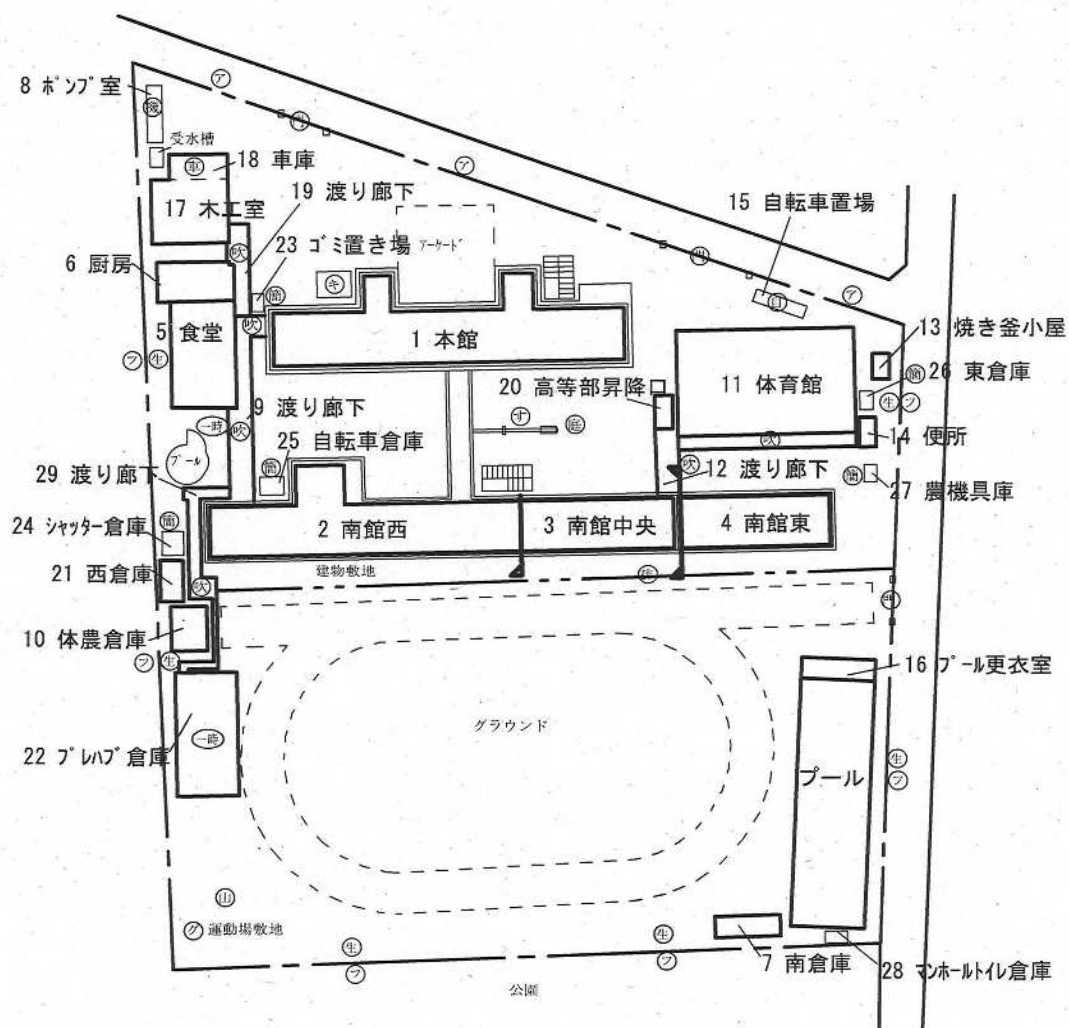
1 面積及び所有区分

(令和8年2月28日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		16,551.18	16,551.18					
内 訳	校 舎 敷 地	9,627.98	9,627.98					
	運動場敷地	6,923.20	6,923.20					
	そ の 他 敷 地							
校 舎		建 2,733.39 延 6,620.23	2,733.39 6,620.23					
体 育 館		建 573.50 延 500.25	573.50 500.25					
その他の建物		建 426.43 延 426.43	426.43 426.43					
プ ー ル		192.00	192.00					大 8 m×20m 小 4 m× 8 m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	16,551.18 m ²	6,620.23 m ²	6,923.20 m ²
県平均	19,266.88 m ²	6,361.36 m ²	5,302.07 m ²

学 校 施 設 の 概 要 （ 磐 田 分 校 ）

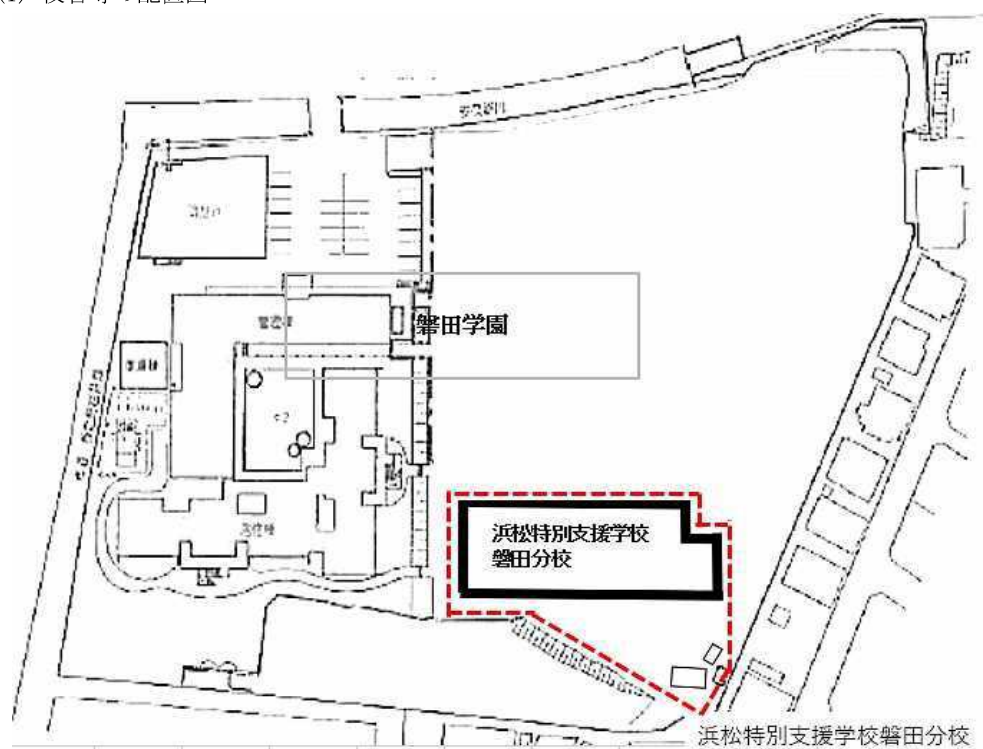
1 面積及び所有区分

(令和8年2月28日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		1,712.25	1,712.25					磐田学園借地
内 訳	校 舎 敷 地	1,017.25	1,017.25					
	運動場敷地							
	そ の 他 敷 地	695.00	695.00					
校 舎		建 810.51 延 1,516.89	810.51 1,516.89					
その他の建物		建 8.74 延 8.74	8.74 8.74					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	(1,712.25㎡)	1,516.89 ㎡	— ㎡
県平均	(㎡)	㎡	— ㎡

学 校 施 設 の 概 要 （ 城 北 分 校 ）

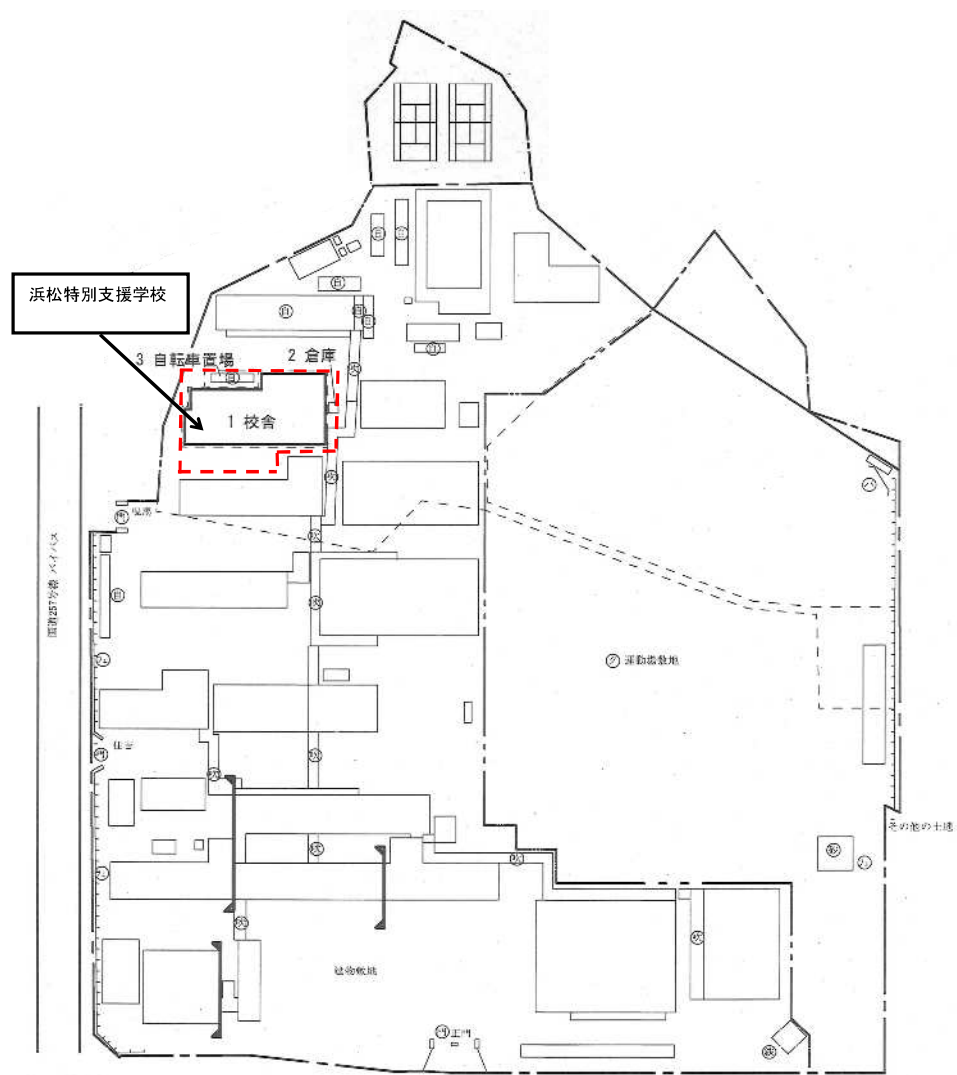
1 面積及び所有区分

(令和8年2月28日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		1,008.71	1,008.71					浜松城北工業 高等学校借地
内 訳	校 舎 敷 地	958.21	958.21					
	運動場敷地							
	そ の 他 敷 地	50.50	50.50					
校 舎		建 820.44 延 1,389.00	820.44 1,389.00					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	(1,008.71 m^2)	1,389.00 m^2	— m^2
県平均	(m^2)	m^2	— m^2

在 籍 生 徒 調

(小学部)

(令和8年2月28日現在)

学 年	所属 区分		本 校			磐 田 分 校			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	入 学 者		15	3	18	1	1	2	16	4	20
		増加									
		減少									
	現 在		15	3	18	1	1	2	16	4	20
2 年	入 学 者		15	2	17	1		1	16	2	18
		増加									
		減少									
	2 年 時 当 初		15	2	17	1		1	16	2	18
		増加									
		減少									
	現 在		15	2	17	1		1	16	2	18
3 年	入 学 者		18	3	21	2	1	3	20	4	24
		増加	1	1	2				1	1	2
		減少									
	2 年 時 当 初		19	4	23	2	1	3	21	5	26
		増加	1		1				1		1
		減少	1		1				1		1
	3 年 時 当 初		19	4	23	2	1	3	21	5	26
		増加	2		2				2		2
		減少									
	現 在		21	4	25	2	1	3	23	5	28
4 年	入 学 者		22	5	27				22	5	27
		増加									
		減少	1		1				1		1
	2 年 時 当 初		21	5	26				21	5	26
		増加									
		減少									
	3 年 時 当 初		21	5	26				21	5	26
		増加		1	1		1	1		2	2
		減少	1		1				1		1
	4 年 時 当 初		20	6	26		1	1	20	7	27
		増加		1	1		1	1		2	2
		減少									
	現 在		20	7	27		2	2	20	9	29

学年	所属 区分		本 校			磐 田 分 校			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
5 年	入 学 者		15	5	20	4	0	4	19	5	24
		増加									
		減少									
	2 年 時 当 初		15	5	20	4	0	4	19	5	24
		増加	2		2		1	1	2	1	3
		減少				1		1	1		1
	3 年 時 当 初		17	5	22	3	1	4	20	6	26
		増加	2	1	3				2	1	3
		減少	1		1				1		1
	4 年 時 当 初		18	6	24	3	1	4	21	7	28
		増加	1		1				1		1
		減少									
	5 年 時 当 初		19	6	25	3	1	4	22	7	29
		増加	1		1		1	1	1	1	2
減少											
現 在		20	6	26	3	2	5	23	8	31	
6 年	入 学 者		15	6	21	2	0	2	17	6	23
		増加				1		1	1		1
		減少	4		4				4		4
	2 年 時 当 初		11	6	17	3	0	3	14	6	20
		増加									
		減少									
	3 年 時 当 初		11	6	17	3	0	3	14	6	20
		増加	1		1		1	1	1	1	2
		減少	2		2				2		2
	4 年 時 当 初		10	6	16	3	1	4	13	7	20
		増加				1		1	1		
		減少	1		1	1		1	2		1
	5 年 時 当 初		9	6	15	3	1	4	12	7	19
		増加									
減少					1			1		1	
6 年 時 当 初		9	6	15	2	1	3	11	7	18	
	増加				1	1	2	1	1	2	
	減少										
現 在		9	6	15	3	2	5	12	8	20	
小 学 部 計			100	28	128	10	8	18	110	36	146

(中学部)

学年	所属 区分		本 校			磐 田 分 校			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	入 学 者		14	5	19	4	1	5	18	6	24
		増加									
		減少									
	現 在		14	5	19	4	1	5	18	6	24
2 年	入 学 者		20	11	31	3	1	4	23	12	35
		増加					1	1		1	1
		減少									
	2 年 時 当 初		20	11	31	3	2	5	23	13	36
		増加				1		1	1		1
		減少	1			1	1	2	2	1	3
	現 在		19	11	30	3	1	4	22	12	34
3 年	入 学 者		12	9	21	5	2	7	17	11	28
		増加									
		減少	2	1	3				2	1	3
	2 年 時 当 初		10	8	18	5	2	7	15	10	25
		増加									
		減少				2		2	2		2
	3 年 時 当 初		10	8	18	3	2	5	13	10	23
		増加	1		1	1		1	2		2
減少						2	2		2	2	
	現 在		11	8	19	4	0	4	15	8	23
中 学 部 計			44	24	68	11	2	13	55	26	81

(高等部)

学年	所属		本校			磐田分校			城北分校				合計			
	区分		総	男	女	計	男	女	計	総	男	女	計	男	女	計
1年	入学者		39	23	8	31				27	19	8	27	42	16	58
	増加 減少															
		現在		23	8	31					19	8	27	42	16	58
2年	入学者		39	27	7	34				27	17	10	27	44	17	61
	増加 減少															
		2年時当初		2		2								2		2
	増加 減少		25	7	32					17	10	27	42	17	59	
	現在		25	7	32					17	10	27	42	17	59	
3年	入学者		57	28	17	45				18	10	7	17	38	24	62
	増加 減少															
		2年時当初		28	17	45					10	7	17	38	24	62
	増加 減少															
		3年時当初		1		1								1		1
	増加 減少		27	17	44					10	7	17	37	24	61	
	現在		27	17	44					10	7	17	37	24	61	
高等部計				75	32	107					46	25	71	121	57	178

学 校 合 計		219	84	303	21	10	31		46	25	71	286	119	405
---------	--	-----	----	-----	----	----	----	--	----	----	----	-----	-----	-----

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
学 科 別		高等部		高等部		高等部		高等部		高等部	
		本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校	本校	城北分校
生 徒 定 員 (A)		4 8	1 8	5 7	1 8	3 9	2 7	3 0	2 7	3 9	2 7
募 集 者 数 (B)		4 8	1 8	5 7	1 8	3 9	2 7	3 0	2 7	3 9	2 7
志願者数	男	2 6	2 5	2 8 (0)	1 6	2 8	1 7	2 3	2 5	2 5	2 8
	女	1 3	1 3	1 6 (1)	1 2	7	1 2	8	1 2	1 0	8
	計 (C)	3 9	3 8	4 4 (1)	2 8	3 5	2 9	3 1	3 7	3 5	3 6
受検者数	男	2 6	2 5	2 8 (0)	1 5	2 8	1 7	2 3	2 5	2 5	2 8
	女	1 3	1 3	1 6 (1)	1 2	7	1 1	8	1 2	1 0	8
	計 (D)	3 9	3 8	4 4 (1)	2 7	3 5	2 8	3 1	3 7	3 5	3 6
合格者数	男	2 6	1 1	2 8 (0)	1 0	2 8	1 7	2 3	1 9	2 5	2 1
	女	1 3	8	1 6 (1)	8	7	1 0	8	8	1 0	6
	計 (E)	3 9	1 9	4 4 (1)	1 8	3 5	2 7	3 1	2 7	3 5	2 7
志願倍率 (C) / (B)		0. 8 1	2. 1 1	0. 7 7	1. 5 5	0. 9 0	1. 0 7	1. 0 3	1. 3 7	0. 8 9	1. 3 3
受検倍率 (D) / (B)		0. 8 1	2. 1 1	0. 7 7	1. 5 0	0. 9 0	1. 0 3	1. 0 3	1. 3 7	0. 8 9	1. 3 3
入学者数	男	2 6	1 1	2 8	1 0	2 7	1 7	2 3	1 9	2 4	2 1
	女	1 3	8	1 7	7	7	1 0	8	8	1 0	6
	計 (F)	3 9	1 9	4 5	1 7	3 4	2 7	3 1	2 7	3 4	2 7
充 足 率 (F) / (A)		0. 8 1	1. 0 5	0. 7 9	0. 9 4	0. 8 7	1. 0 0	1. 0 3	1. 0 0	0. 8 7	1. 0 0

卒業生の動向調

区 分		本校			磐田分校	城北分校		合 計
		中学部	高等部		中学部	高等部		
			本 科	専 攻 科		本科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制							
	定時制							
	通信制							
特別支援学校高等部		19			2			21
その他高等学校等								
大学等	大学(学部)							
	短期大学(本科)							
	大学・短大の通信教育学部等							
	その他大学等							
特別支援学校高等部専攻科								
専修学校(専門課程)								
専修学校(一般課程)・各種学校								
公共職業能力開発施設等								
就 職			15			14		29
上 記 以 外 ※			29		2	3		34
不 詳 ・ 死 亡								
計 (卒業者総数)		19	44		4	17		84

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分	本校			磐田分校	城北分校		合計
	中学部	高等部		中学部	高等部		
		本 科	専攻科		本科	専攻科	
児童福祉施設				1			1
障害者支援施設		28		1	3		32
（うち就労系支援事業利用者）	（）	（16）	（）	（）	（２）	（）	（18）
医療機関							
計		28		2	3		33

生徒の状況（本校）

1 生徒の居住地及び通学方法

(1) 居住地

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

市町名	浜松市	合 計
生徒数	303	303
構成比%	100%	100%

(2) 通学方法

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

区 分	スクール バ ス	交通機関	自家用車	徒 歩	自 転 車	合 計
生徒数	169	66	51	5	12	303
構成比%	55.8%	21.8%	16.8%	1.6%	4.0%	100%

(3) 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	有	ヘルメット着用要件	無
-----------	---	-----------	---

(4) ヘルメット所持、着用率

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

入学年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	合 計
自転車通学者数	6	2	4	12
ヘルメット所持者数	6	2	4	12

着用率・着用状況	着用率100%
----------	---------

2 部（クラブ）の加入状況（高等部）

（令和8年2月28日現在）（単位：人）

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		3	2		5
男子	1 年	5	0	18	23
	2 年	5	5	15	25
	3 年	6	2	19	27
	計 (A)	16	7	52	75
	構成比	21.3%	9.3%	69.4%	100%
女子	1 年	0	3	5	8
	2 年	0	2	5	7
	3 年	1	3	13	17
	計 (B)	1	8	23	32
	構成比	3.1%	25%	71.9%	100%
(A + B)		17	15	75	107
合計	構成比	15.9%	14.0%	70.1%	100%

3 障害別児童生徒数

（令和8年2月28日現在）（単位：人）

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計	学級数
小学部	単一障害	10	9	16	15	13	6	69	14
	重複障害	8	8	9	12	13	9	59	21
	肢体重複	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	18	17	25	27	26	15	128	35
中学部	単一障害	12	18	12				42	7
	重複障害	7	12	7				26	11
	肢体重複	0	0	0				0	0
	合計	19	30	19				68	18
高等部	単一障害	29	31	41				101	12
	重複障害	2	1	3				6	3
	肢体重複	0	0	0				0	0
	合計	31	32	44				107	15

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位：人)

区 分	染色体 異 常	脳 性 疾 患	自閉症 傾 向	知 的 障 害	その他	計
小学部	29	6	68	21	4	128
中学部	20	8	26	12	2	68
高等部	21	2	43	35	6	107
計	70	16	137	68	12	303

生徒の状況（磐田分校）

1 生徒の居住地及び通学方法

(1) 居住地 (令和8年2月28日現在) (単位：人)

市町名	静岡市	浜松市	磐田市	袋井市	島田市	御殿場市	その他	合 計
生徒数	4	4	4	2	2	2	13	31
構成比%	12.9%	12.9%	12.9%	6.5%	6.5%	6.5%	41.9%	100.1%

(2) 通学方法 (令和8年2月28日現在) (単位：人)

区 分	徒 歩	合 計
生徒数	31	31
構成比%	100%	100%

(3) 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無
-----------	---	-----------	---

(4) ヘルメット所持、着用率

(令和8年2月28日現在) (単位：人)

入学年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合 計
自転車通学者数	0	0	0	0
ヘルメット所持者数	0	0	0	0

着用率・着用状況	施設入所のため、公共道路での自転車乗車の機会はない。施設内での自転車練習では、施設所有のヘルメットを着用している。
----------	---

2 部（クラブ）の加入状況

該当なし

3 障害別児童生徒数 (令和8年2月28日現在) (単位：人)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計	学級数
小学部	単一障害	2	1	3	2	5	4	17	6
	重複障害	0	0	0	0	0	1	1	1
	肢体重複	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	2	1	3	2	5	5	18	7
中学部	単一障害	5	3	4				12	3
	重複障害	0	1	0				1	1

部	肢体重複	0	0	0				0	0
	合計	5	4	4				13	4

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分	知 的 障 害	自閉症 傾 向	脳 性 疾 患	その他	計
小学部	9	8	1	0	18
中学部	1	10	0	2	13
計	10	18	1	2	31

生徒の状況（城北分校）

1 生徒の居住地及び通学方法

(1) 居住地

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

市町名	浜松市	湖西市	合 計
生徒数	69	2	71
構成比%	97.2%	2.8%	100%

(2) 通学方法

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

区 分	交通機関	徒歩	自転車	合 計
生徒数	37	5	29	71
構成比%	52.1%	7.0%	40.9%	100%

(3) 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無
-----------	---	-----------	---

(4) ヘルメット所持、着用率

（令和 8 年 2 月 28 日現在）（単位：人）

入学年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	合 計
自転車通学者数	11	13	5	29
ヘルメット所持者数	4	5	2	11

着用率・着用状況	着用率37.9%
----------	----------

2 部（クラブ）の加入状況

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		1	1		2
男子	1 年	8	4	7	19
	2 年	8	3	6	17
	3 年	2	1	7	10
	計 (A)	18	8	20	46
	構成比	39.1%	17.4%	43.5%	100%
女子	1 年	0	3	5	8
	2 年	1	3	6	10
	3 年	0	0	7	7
	計 (B)	1	6	18	25

	構成比	4.0%	24.0%	72.0%	100%
(A + B)		19	14	38	71
合計	構成比	26.8%	19.7%	53.5%	100%

3 障害別児童生徒数 (令和8年2月28日現在) (単位：人)

区 分		1 年	2 年	3 年	合 計	学級数
高等部	単一障害	27	27	17	71	8
	重複障害	0	0	0	0	0
	肢体重複	0	0	0	0	0
	合計	27	27	17	71	8

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位：人)

区 分	知的 障 害	自閉症 傾 向	脳 性 疾 患	その他	計
高等部	34	22	0	15	71
計	34	22	0	15	71

特別支援学校における生産物売払調（本校）

令和 7 年度

（令和 8 年 2 月 28 日現在）

	主な生産品目		
7 年 度	<手芸品・工作物> コースター、ポンポンリース、ミニほうき、キーホルダー、かご、フォトフレーム、箱、メモクリップ（2 個セット）、カレンダー、メモ帳、ふきん、マルチクロス、巾着袋、革コースター、革名刺入れ、革キーリング、革ミニカバン、高級革カバン、革マルチケース、ティッシュカバー（大、小）、合皮＋織りバッグ（大、小）、革＋織りキーホルダー、ティッシュケースカバー（大、小）、サイドポケットバッグセット、織りポーチ、織りキーホルダー、織りのショルダーストラップ <農作物・園芸品> さつまいも、さつまいも（B 級品）、枝豆、だいこん、白菜、じゃがいも、ブロッコリー、ほうれん草、たまねぎ <陶芸品> 小物、小皿、平皿、カップ、八角皿、コーヒーカップ、フリー陶器、井ぶり <木工用品> 木製玩具、ペン立て、折りたたみ椅子、カッティングボード、ペン立て、鍋敷き、スマホスピーカー		
	① 売払金額	506,430 円	② 前年度との差額 7,030 円

6 年 度	<手芸品・工作物> コードホルダー、トレイ、革小物、スマホホルダー、キーホルダー、バッグ（大、小）、ペン立て、丸小物入れ、持ち手付きんちやく袋、きんちやく袋（大、小）、ミニきんちやく袋、ばねポーチ、コースター、ランチョンマット、しめ飾り、編みかご（大）、クリップ付き編みかご（小）、クリップ&マグネット、ティッシュボックスカバー、小物入れ（大、小）、クリアファイル、マルチ布巾、アクリル毛糸ほうき、ウール毛糸鍋敷き、かばん（大、中）、ミニかばん、ファスナーポーチ、SDGsしおり、フラップポーチ（大、小）、トートバッグ、布小物（ペアゴム、コースター） <農作物・園芸品> 枝豆、さつまいも、ブロッコリー、玉ねぎ、エシャレット、大根、 <陶芸品> 平皿、大皿、中皿、小皿、八角皿、ピアマグ、アロマストーン、マルチボウル <木工用品> スピーカー、折りたたみ椅子、ウッドブロックタワー、カッティングボード、スマホスタンド、リース飾り、箱			
	① 売払金額	499,400 円	② 前年度との差額	△20,900 円
5 年 度	<手芸品・工作物> アクリルタワシ、アクリルほうき、ポシェット、編みかご、しめ縄飾り、だるま飾り、スケジュール帳、巾着袋、布巾、トートバッグ、バッグ、丸型かご、ペン立て、四角形小物入れ、スマホホルダー、ハサミカバー、写真立て、キーホルダー、コードホルダー、ペンケース（三角、四角）、ポイントカード入れ、丸型コインケース、三角コインケース、まち付きコインケース、ボックスコインケース、マルチケース、ランチョンマット（普通、ミニ）、しずく巾着（大、小）、コースター、SDGsコースター、ミニクッション、SDGsキーホルダー、新スマホホルダー、名刺入れ、NEWキーホルダー、トレイ、（三角、四角）、丸型小物入れ、			

	サコッシュュ		
5 年 度	<農作物・園芸品> 玉ねぎ、大根、ブロッコリー、さつまいも、ピーマン、なす、枝豆 <陶芸品> 大皿、中皿、豆皿、カレー皿、平皿（取ってなし、取ってあり）、 ペーパーウェイト、トーストスチーマー <木工用品> なんでもBOX、メモスタンド、コースターセット、折りたたみ椅子、 おもちゃセット、ウッドブロックタワー、スピーカー		
	① 売払金額	520,300 円	② 前年度との差額 95,200 円

特別支援学校における生産物売払調（磐田分校）

令和 7 年度
(令和 8 年 2 月 28 日現在)

	主な生産品目			
7 年 度	<手芸品・工作物> 持ち手付ききんちゃく袋、ミニきんちゃく袋、ミニポーチ、コースター、 刺しゅう入り小物入れ、サコッシュ、ティッシュカバー、弁当袋、丸かご、 取っ手付きの小物入れ、カトラリーケース、コースター（2枚セット） <木工用品> コースター、寄木のコースター、鍋敷き、一輪挿し			
	① 売払金額	40,300 円	② 前年度との差額	△7,700 円
6 年 度	<手芸品・工作物> ティッシュカバー、コースター、コースターセット、巾着、マチ付トート バッグ、ファブリックパネル、編みかご、スマホスタンド、ペン立て、鍋 敷き <木工用品> コースター			
	① 売払金額	48,000 円	② 前年度との差額	△7,700 円
5 年 度	<手芸品・工作物> コースター、巾着袋、ティッシュカバー、エコバッグ（大、小）、 ファブリックパネル（大、小）、ペン立て、メモ帳 <木工用品> レンコンコースター、レンコンなべしき、寄せ木コースター			
	① 売払金額	55,700 円	② 前年度との差額	35,650 円

特別支援学校における生産物売払調（城北分校）

（令和 7 年度）

（令和 8 年 2 月 28 日現在）

	主な生産品目			
7 年 度	＜手芸品・工作物＞ 和綴じメモ帳、和綴じノート、スリムノート、祝儀袋、A 6 ペンノート、紙すきポチ袋、和紙ポチ袋、マグネット、キーホルダー、スライドケース、マグネットタッチケース、ペンケース（金属）、キーケース、パスケース、ペンケース（レザー）、コインケース、ランチバンド、結束バンド、サコッシュ、トートバッグ、コースター、A 5 ノート、スマートキーケース、スマホケース、名刺入れ、コースター（2 個セット）			
	① 売払金額	421,300 円	② 前年度との差額	52,400 円
6 年 度	＜手芸品・工作物＞ マグネット（五角形）、キーホルダー（五角形）、小物入れ（五角形）、スライドケース、和綴じメモ帳、和綴じノート、ノート（A 5、A 6）、ペン差し付きノート（A 6）、紙すきポチ袋、紙すきお祝い袋、キーケース、スマートキーケース、レザートレイ、ペンケース、名刺入れ、パスケース、結束バンド、ランチバンド、コインケース、サコッシュ、トートバッグ			
	① 売払金額	368,900 円	②前年度との差額	△80,600 円
5 年 度	＜手芸品・工作物＞ ボックスポーチ、スマホホルダー、サコッシュ、ノート（A 5、A 6）、和綴じメモ帳、ペン立て、マグネット（四角形、五角形）、スライドケース、パスケース、名刺入れ、コインケース、ペンケース、結束バンド、ヘアゴム、レザークリップ、キーケース、マウスパッド、キーホルダーバック、ランチバンド、バンド、レザートレイ、ヘアピン、キーカバー、カードケース、小物入れ、コンテナボックス			
	① 売払金額	449,500 円	②前年度との差額	△10,450 円

預 金 調

(令和8年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高	摘 要
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0113900	静岡県立浜松特別支援学校 資金前渡者 園田 一哉	円 0	給料の現金支給
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0558725	(自振口) 静岡県立浜松特別支援学校 資金前渡者 園田 一哉	0	後納郵便料金、電話 料金、社会保険料の 口座振替
株式会社静岡銀行 浜松南支店	無利息型 普通預金	0575477	静岡県立浜松特別支援学校 奨励費代理受領者 園田一哉	0	特別支援教育就学 奨励費
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和8年2月28日現在)

(本校)

(単位：枚、円)

区分		種 類	6年度						7年度								摘要
			繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
			枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
はがき	85 円券							0	0	90	7,650	90	7,650	0	0	通信用	
郵便	120 円券	140	16,800	100	12,000	105	12,600	135	16,200	0	0	135	16,200	0	0	通信用	
"	110 円券			260	28,600	82	9,020	178	19,580	0	0	109	11,990	69	7,590	通信用	
"	100 円券							0	0	100	10,000	6	600	94	9,400	通信用	
"	84 円券	17	1,428	100	8,400	106	8,904	11	924	0	0	11	924	0	0	通信用	
"	26 円券			47	1,222	36	936	11	286	0	0	11	286	0	0	通信用	
"	10 円券	119	1,190	220	2,200	130	1,300	209	2,090	200	2,000	195	1,950	214	2,140	通信用	
"	1 円券	1	1	50	50	18	18	33	33	0	0	6	6	27	27	通信用	
計			19,419		52,472		32,778		39,113		19,650		39,606		19,157		

(令和8年2月28日現在)

(磐田分校)

(単位：枚、円)

区分	種 類	6年度						7年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	140 円券							0	0	120	16,800	31	4,340	89	12,460	通信用
"	120 円券	44	5,280	150	18,000	133	15,960	61	7,320	50	6,000	94	11,280	17	2,040	通信用
"	110 円券			110	12,100	18	1,980	92	10,120	100	11,000	135	14,850	57	6,270	通信用
"	84 円券	58	4,872	50	4,200	108	9,072	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
"	26 円券			40	1,040	40	1,040	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
"	10 円券	73	730	220	2,200	184	1,840	109	1,090	150	1,500	137	1,370	122	1,220	通信用
"	1 円券	80	80	4	4	84	84	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
計			10,962		37,544		29,976		18,530		35,300		31,840		21,990	

(令和8年2月28日現在)

(城北分校)

(単位：枚、円)

区分	種 類	6年度						7年度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵便	140 円券			160	22,400	45	6,300	115	16,100	100	14,000	95	13,300	120	16,800	通信用
"	120 円券	48	5,760	100	12,000	134	16,080	14	1,680	0	0	14	1,680	0	0	通信用
"	110 円券			147	16,170	16	1,760	131	14,410	400	44,000	284	31,240	247	27,170	通信用
"	84 円券	95	7,980	300	25,200	392	32,928	3	252	0	0	3	252	0	0	通信用
"	26 円券			255	6,630	255	6,630	0	0	3	78	3	78	0	0	通信用
"	10 円券	206	2,060	100	1,000	261	2,610	45	450	200	2,000	68	680	177	1,770	通信用
"	1 円券	26	26	0	0	8	8	18	18	0	0	0	0	18	18	通信用
計			15,826		83,400		66,316		32,910		60,078		47,230		45,758	

材 料 品 受 払 調

(令和 7 年度)

(本校)

(令和 8 年 2 月 28 日現在)

区分 品名	令和 6 年度						令和 7 年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
檜板	0枚	0	123	56,265	123	56,265	0	0	61	49,533	61	49,533	0	0	
籐芯材	0kg	0	10	99,520	10	99,520	0	0	0	0	0	0	0	0	
釉薬	0個	0	2	47,520	2	47,520	0	0	0	0	0	0	0	0	
粘土	0袋	0	11	52,800	11	52,800	0	0	12	91,850	12	91,850	0	0	
布	0m	0	125	129,698	125	129,698	0	0	139	116,260	139	116,260	0	0	
毛糸	0玉	0	31	11,726	31	11,726	0	0	194	70,873	194	70,873	0	0	
クラフトバント	0本	0	22	21,647	22	21,647	0	0	0	0	0	0	0	0	
革	0デシ	0	1,679	197,670	1,679	197,670	0	0	677	116,548	677	116,548	0	0	
ホワイトウツバ	0本	0	20	18,480	20	18,480	0	0	0	0	0	0	0	0	
ホワイトアッシュ	0本	0	5	49,896	5	49,896	0	0	3	27,720	3	27,720	0	0	
ウォールナット	0本	0	8	144,980	8	144,980	0	0	5	94,600	5	94,600	0	0	
杉	0本	0	120	25,080	120	25,080	0	0	485	35,227	485	35,227	0	0	
ベニヤ	0枚	0	15	3,795	15	3,795	0	0	0	0	0	0	0	0	
木製角材	0本	0	0	0	0	0	0	0	3	330	3	330	0	0	
桐材	0本	0	0	0	0	0	0	0	3	330	3	330	0	0	
梣	0枚	0	0	0	0	0	0	0	2	11,220	2	11,220	0	0	
紙バンド	0個	0	0	0	0	0	0	0	31	33,473	31	33,473	0	0	
計		0		859,077		859,077		0		647,964		647,964		0	

材 料 品 受 払 調

(令和7年度)

(磐田分校)

(令和8年2月28日現在)

区分 品名	令和6年度						令和7年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
布・シーチンク ^o	0 ^m	0	106	9,424	106	9,424	0	0	208	20,149	208	20,149	0	0	
クラフトハ ^o ント ^o	0 ^m	0	7	18,150	7	18,150	0	0	12	16,005	12	16,005	0	0	
杉板材	0枚	0	3	6,840	3	6,840	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヒノキ	0枚	0	5	15,360	5	15,360	0	0	5	5,354	5	5,354	0	0	
寄木カラーウツ ^o	0枚	0	3	5,100	3	5,100	0	0	6	10,100	6	10,100	0	0	
シナ合板	0枚	0	0	0	0	0	0	0	3	2,694	3	2,694	0	0	
メルクパ ^o ン集成材	0枚	0	0	0	0	0	0	0	4	5,420	4	5,420	0	0	
モザイク ^o ブロックミックス	0枚	0	0	0	0	0	0	0	2	2,800	2	2,800	0	0	
計		0		54,874		54,874		0		62,522		62,522		0	

(令和7年度)

(城北分校)

(令和8年2月28日現在)

区分 品名		令和6年度						令和7年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ブリキ板	0枚	0	6	17,160	6	17,160	0	0	6	17,160	6	17,160	0	0		
カールハバリウム板	0枚	0	5	18,150	5	18,150	0	0	6	21,780	6	21,780	0	0		
布	0 m	0	81	99,882	81	99,882	0	0	74	96,140	74	96,140	0	0		
牛革ウインセント	0 デシ	0	1,485	190,080	1,485	190,080	0	0	960	122,880	960	122,880	0	0		
牛革タンロー	0 デシ	0	0	0	0	0	0	0	709	113,440	709	113,440	0	0		
計		0		325,272		325,272		0		371,400		371,400		0		

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、 5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		697,400	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		119,900	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		64,467,766	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		14,356,694	
計					78,264,628	79,641,760	0
(14) 工事 請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		5,346,000	
計					15,495,700	5,346,000	0
(16) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		2,648,030	
計					6,639,138	2,648,030	0
(18) 負担金、 補助及び 交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		31,000	
計					36,200	31,000	0
(21) 補償、 補填及び 賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行額(円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	74,800	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	53,672,187	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	11,838,508	
計					65,585,495	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,111,000	
計					1,111,000	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	3,884,760	
計					3,884,760	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	58,700	
計					58,700	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	契 約 金 額			契約締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
1	通学バス輸送 業務	ラビット急行 (株)	212,544,200	190,077,800	0	190,077,800	一般	R6.4.1 ～ R9.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.28 小 計	5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 5,279,934 63,359,208	通学・校外活動 児童・生徒送迎 バス輸送業務 (N:12月)	本校 6長期
2	給食業務	(株)ミカサ	63,360,000	41,294,000	22,968	41,316,968	一般	R5.8.7 ～ R8.7.31	累計金額 R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.28 小 計	(9,176,684) 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 1,147,047 13,764,564	学校給食業務 (N:12月)	本校 5長期
3	不燃ごみ収集 運搬処分業務	(株)三共	25,410	25,410	0	25,410	随契	R6.4.25 ～ R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.28 小 計	2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 2,310 25,410	不燃ごみ収集運搬 処分業務 (N:11月×1回)	本校 随契1号 (少額)
4	自動扉保守点検 業務	中日本オート ・ドア(株)	23,980	23,980	0	23,980	随契	R6.4.15 ～ R7.3.31	R6.7.30 R6.10.8 R7.1.23 R7.4.28 小 計	5,995 5,995 5,995 5,995 23,980	自動扉保守点検業務 (N:4回)	本校 磐田分校 随契1号 (少額)
5	事業系一般廃棄 物収集運搬処分 業務	(有)コスモクリー ン庭好	92,950	92,950	0	92,950	随契	R6.8.2 ～ R6.10.31	R6.8.26	92,950	木くずの収集運搬・発生 材の処分業務 (N:木くず2tバ ッカー× 1車+発生材2tバ ッカー×1車)	本校 随契1号 (少額)
6	産業廃棄物収集 運搬処分業務	(株)太平洋サービ ス	69,300	69,300	0	69,300	随契	R6.7.2 ～ R6.10.31	R6.9.25	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:グリストラップ 汚泥800L× 1式)	本校 随契1号 (少額)

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	契 約 金 額			契約締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
7	城北分校物品 移設業務	浜名梱包輸送 ㈱	425,700	425,700	0	425,700	随契	R6.6.18 ～ R6.9.13	R6.9.26	425,700	物品移設業務 (N:1回)	城北分校 随契1号 (少額)
8	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱リサイクルクリーン	297,000	297,000	0	297,000	随契	R6.6.7 ～ R6.10.31	R6.10.1	297,000	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:ﾌｯｸﾛｰﾙ8.0㎡×3台)	本校 随契1号 (少額)
9	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱リサイクルクリーン	149,050	149,050	0	149,050	随契	R6.6.27 ～ R6.10.31	R6.10.3	149,050	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:ﾌｯｸﾛｰﾙ8.0㎡×1台 +3.5㎡×1台)	磐田分校 随契1号 (少額)
10	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱リサイクルクリーン	396,000	396,000	0	396,000	随契	R6.8.2 ～ R7.1.10	R6.10.28	396,000	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:ﾌｯｸﾛｰﾙ8.0㎡×4台)	本校 随契1号 (少額)
11	防鼠防虫業務	㈱帝装化成 浜松営業所	551,100	551,100	-3,080	548,020	随契	R6.4.15 ～ R7.3.31	R6.10.31 R7.4.28 小 計	275,550 272,470 548,020	防鼠防虫(点検等) (N:12回) 防虫(薬剤散布) (N:2回)	浜松聴覚特別支援、浜 松視覚特別支援、浜名 特別支援、浜北特別支 援、浜松工業高校、浜 名高校 随契1号(少額)
12	外壁打診調査 業務	㈱竹下一級 建築士事務所	271,700	271,700	0	271,700	随契	R6.9.25 ～ R6.11.29	R6.12.13	271,700	外壁打診調査業務 (N:1回)	本校 随契1号 (少額)
13	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱エムエスケイ	21,560	21,560	0	21,560	随契	R6.10.31 ～ R7.3.28	R6.12.24	21,560	廃蛍光管の収集運搬処分 業務 (N:40w直管20kg+20w 直管10kg)	本校 随契1号 (少額)
14	事業系一般廃棄 物収集運搬処分 業務	㈲コスモｸﾞﾘｰﾝ 庭好	92,950	92,950	0	92,950	随契	R6.11.29 ～ R7.2.28	R7.1.20	92,950	木くずの収集運搬・発生 材の処分業務 (N:木くず2tﾊﾞｯｸ-× 1車+発生材2tﾊﾞｯｸ-×1車)	本校 随契1号 (少額)
15	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱太平洋サービス	35,068	35,068	0	35,068	随契	R6.11.19 ～ R7.3.28	R7.1.31	35,068	電池の収集運搬処分業務 (N:ﾌﾙｶﾘｰﾏﾝｶﾞﾝ乾電池24kg +ﾘﾅｲﾑ電池(ｶﾞﾗﾝ電池)1kg)	本校 随契1号 (少額)
16	産業廃棄物収集 運搬処分業務	㈱太平洋サービス	69,300	69,300	0	69,300	随契	R6.12.18 ～ R7.3.28	R7.3.18	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:ｸﾞﾘｽﾄﾗｯﾌﾟ 汚泥800L× 1式)	本校 随契1号 (少額)
	事務関係計	16件								79,641,760		
参考 1	警備業務	総合警備保障 ㈱静岡支社		6,705,600	0	6,705,600		R1.10.1 ～ R6.9.30			警備業務(N:12月)	浜松北高校 本校
参考 2	警備業務	総合警備保障 ㈱静岡支社		8,448,000	0	8,448,000		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務(N:12月)	浜松北高校 本校
参考 3	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防 設備保守点検 業協同組合		12,650,000	859	12,650,859		R6.4.1 ～ R7.3.31			消防設備等保守点検業務 (機器1回) (機器・総合1回)	浜松商業高校 本校
参考 4	自家用電気工作 物保安管理業務	遠鉄アシスト ㈱		2,786,520	0	2,786,520		R6.4.1 ～ R7.3.31			自家用電気工作物保安 管理業務 (月次点検 N:5月) (年次点検 N:1回)	浜松湖東高校 本校

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	契 約 金 額			契約締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
参考 5	可燃物収集運搬 処分業務	環境保全㈱		収集運搬料 @715円/回 処分料 @13.2円/kg	0 0	収集運搬料 @715円/回 処分料 @13.2円/kg		R6.4.8 ～ R7.3.31			可燃物収集運搬処分 業務 (N:12月 220回)	浜松大平台高校 本校 単価契約
参考 6	プール浄化装置 保守点検業務	清化工業㈱		998,800	-17,050	981,750		R6.4.8 ～ R6.12.27			プール浄化装置保守 点検業務 (N:2回)	浜松東高校 本校
参考 7	建築基準法第12 条に基づく定期 点検業務	(有)いま総合 設計		3,784,000	0	3,784,000		R6.8.2 ～ R7.2.28			定期点検業務 (A:設備6,876.25㎡ 建築7,128.54㎡)	浜松南高校 本校
参考 8	警備業務	総合警備保障 ㈱静岡支社		17,166,600	0	17,166,600		R1.10.1 ～ R6.9.30			警備業務 (N:12月)	磐田南高校 磐田分校
参考 9	警備業務	総合警備保障 ㈱静岡支社		13,602,600	0	13,602,600		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務 (N:12月)	磐田南高校 磐田分校
参考 10	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防 設備保守点検 業協同組合		9,251,000	0	9,251,000		R6.4.1 ～ R7.3.31			消防施設等点検業務 (機器1回) (機器・総合1回)	磐田農業高校 磐田分校
参考 11	可燃物収集運搬 処分業務	㈱ハシモト		収集運搬料 @5,885円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月	0 0 0	収集運搬料 @5,885円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月		R6.4.10 ～ R7.3.31			可燃物収集運搬処分 業務 (N:12月 84回)	磐田西高校 磐田分校 単価契約
参考 12	ガスヒート ポンプ点検業務	ヤマザキ・ シー・エー㈱		3,696,000	16,500	3,679,500		R6.7.23 ～ R7.1.31			ガスヒートポンプ 点検業務 (N:2回)	磐田北高校 磐田分校
参考 13	建築基準法第12 条に基づく定期 点検業務	(有)コーセイ産 業		3,063,390	0	3,063,390		R6.11.1 ～ R7.2.28			定期点検業務 (A:設備1,516.89㎡ 建築1,516.89㎡)	磐田農業高校 磐田分校
参考 14	警備業務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		R1.10.1 ～ R6.9.30			警備業務 (N:12月)	浜松工業高校 城北分校
参考 15	警備業務	セコム㈱		14,256,000	0	14,256,000		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務 (N:12月)	浜松工業高校 城北分校
参考 16	建築基準法第12 条に基づく定期 点検業務	(有)山口一級 建築士事務所		2,200,000	0	2,200,000		R6.11.22 ～ R7.3.24			定期点検業務 (A:設備1,389.00㎡)	浜北西高校 城北分校
	計	16件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当初設計金額	契 約 金 額			契約締結 方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
1	通学バス輸送 業務	ラビット急行 (株)	212,544,200	190,077,800	0	190,077,800	一般	R6.4.1 ～ R9.3.31	累計金額 R7.5.30 5,279,934 R7.6.30 5,279,934 R7.7.31 5,279,934 R7.8.29 5,279,934 R7.10.17 5,279,934 R7.10.31 5,279,934 R7.11.28 5,279,934 R7.12.24 5,279,934 R8.1.30 5,279,934 R8.2.27 5,279,934 小 計 52,799,340	(63,359,208)	通学・校外活動 児童・生徒送迎 バス輸送業務 (N:12月)	本校6長期
2	給食業務	(株)ミカサ	63,360,000	41,294,000	22,968	41,316,968	一般	R5.8.7 ～ R8.7.31	累計金額 R7.5.30 1,148,565 R7.6.30 1,148,477 R7.7.31 1,148,477 R7.8.29 1,148,477 R7.9.30 1,148,477 R7.10.31 1,148,477 R7.11.28 1,148,477 R7.12.24 1,148,477 R8.1.30 1,148,477 R8.2.27 1,148,477 小 計 11,484,858	(22,941,248)	学校給食業務 (N:12月)	本校 5長期
3	不燃ごみ収集 運搬処分業務	(株)三共	30,250	30,250	0	30,250	随契	R7.4.24 ～ R8.3.31	R7.5.30 2,750 R7.6.30 2,750 R7.7.31 2,750 R7.8.29 2,750 R7.10.31 2,750 R7.11.28 2,750 R7.12.24 2,750 R8.1.30 2,750 R8.2.27 2,750 小 計 24,750	2,750	不燃ごみ収集運搬処分 業務 (N:11月×1回)	本校 随契1号 (少額)
4	産業廃棄物収集 運搬処分業務	(株)リサイクルクリーン	297,000	297,000	0	297,000	随契	R7.5.27 ～ R7.9.30	R7.8.29	297,000	廃プラスチック類等混合廃棄物 の収集運搬処分業務 (N:フックロー8.0m ³ ×3台)	本校 随契1号 (少額)
5	産業廃棄物収集 運搬処分業務	(株)太平洋セメント	69,300	69,300	0	69,300	随契	R7.7.10 ～ R7.10.31	R7.9.16	69,300	グリストラップ汚泥の 収集運搬処分業務 (N:グリストラップ 汚泥800L×1式)	本校 随契1号 (少額)
6	産業廃棄物収集 運搬処分業務	(株)エムエスケー	24,530	24,530	0	24,530	随契	R7.7.14 ～ R7.10.31	R7.9.17	24,530	廃棄備品(消毒保管機) の収集運搬処分業務 (N:ユニック車×1台)	本校 随契1号 (少額)
7	防鼠防虫業務	(株)帝装化成 浜松営業所	668,800	668,800	0	668,800	随契	R7.4.15 ～ R9.2.21	R7.10.31	334,400	防鼠防虫(点検等) (N:12回) 防虫(薬剤散布)	浜松聴覚特別支援、浜松 視覚特別支援、浜名特別 支援、浜北特別支援、浜 松工業高校、浜名高校

								Ｒ 〇 . 3 . 3 1			(N : 2 回)	随契 1 号 (少額)
8	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)エムエスケイ	24,647	24,647	-373	24,274	随契	R7.10.22 ～ R8.3.27	R7.12.11	24,274	廃蛍光管の収集運搬処分業務 (N : 40w直管26.1kg+20w直管1.2kg+その他4.5kg)	本校 随契 1 号 (少額)
9	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)大洋サービス	37,103	37,103	0	37,103	随契	R7.10.15 ～ R8.3.27	R7.12.16	37,103	電池の収集運搬処分業務 (N : アルカリ・マンガン乾電池29kg+リチウム電池(ボタン電池)0.2kg)	本校 随契 1 号 (少額)
10	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)大洋サービス	46,035	46,035	0	46,035	随契	R7.11.5 ～ R8.3.27	R7.12.17	46,035	陶芸用粘土の収集運搬処分 (N : 陶芸用粘土79kg)	本校 随契 1 号 (少額)
11	事業系一般廃棄物収集運搬処分業務	(有)コスモグリーン庭好	92,950	92,950	0	92,950	随契	R7.11.5 ～ R8.3.27	R8.1.16	92,950	木くずの収集運搬・発生材の処分業務 (N : 木くず2t(バケツ)1t(バケツ)1t(バケツ)1t)	本校 随契 1 号 (少額)
12	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)大洋サービス	35,805	35,805	0	35,805	随契	R7.12.4 ～ R8.3.27	R8.2.12	35,805	電池の収集運搬処分業務 (N : 電子体温計15本+電池、バッテリー等661g)	本校 随契 1 号 (少額)
13	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)エムエスケイ	188,650	188,650	0	188,650	随契	R7.10.9 ～ R8.3.27	R8.2.13	188,650	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N : フッ素68.0㎡×1台+3.5㎡×1台)	磐田分校 随契 1 号 (少額)
14	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)エムエスケイ	126,500	126,500	0	126,500	随契	R7.11.11 ～ R8.3.27	R8.2.20	126,500	廃プラスチック類等混合廃棄物の収集運搬処分業務 (N : フッ素68.0㎡×1台)	本校 随契 1 号 (少額)
15	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)エムエスケイ	69,630	69,630	0	69,630	随契	R7.9.16 ～ R8.3.27			廃棄備品(大型電気窯)の収集運搬処分業務 (N : ユニーク車×1台)	本校 随契 1 号 (少額)
16	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)大洋サービス	69,300	69,300	0	69,300	随契	R8.1.29 ～ R8.3.27			グリストラップ汚泥の収集運搬処分業務 (N : グリストラップ 汚泥800L×1式)	本校 随契 1 号 (少額)
	事務関係計	16件								65,585,495		
参考 1	警備業務	A L S O K(株)静岡支社		8,448,000	0	8,448,000		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務 (N : 12月)	浜松北高校 本校
参考 2	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		12,540,000	112,072	12,652,072		R7.4.1 ～ R8.3.31			消防設備等保守点検業務(機器 1 回) (機器・総合 1 回)	浜松商業高校 本校
参考 3	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト(株)		3,602,280	0	3,602,280		R7.4.1 ～ R8.3.31			自家用電気工作物保安管理業務 (月次点検 N : 5月) (年次点検 N : 1回)	浜松湖東高校 本校
参考 4	可燃物収集運搬処分業務	環境保全(株)		収集運搬料 @770円/回 処分料 @13.2円/kg	0 0	収集運搬料 @770円/回 処分料 @13.2円/kg		R7.4.7 ～ R8.3.31			可燃物収集運搬処分業務 (N : 12月 215回)	浜松大平台高校 本校 単価契約
参考 5	プール浄化装置保守点検業務	清化工業(株)		995,500	-17,050	978,450		R7.4.10 ～ R7.12.26			プール浄化装置保守点検業務 (N : 2 回)	浜松東高校 本校
参考 6	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	片山一級建築士事務所		3,630,000	0	3,630,000		R7.8.4 ～ R8.2.27			定期点検業務 (A:設備6,876.25㎡ 建築7,128.54㎡)	浜松南高校 本校
参考 7	警備業務	A L S O K(株)静岡支社		13,602,600	0	13,602,600		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務 (N : 12月)	磐田南高校 磐田分校

参考 8	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防 設備保守点検 業協同組合		9,322,500	0	9,322,500		R7.4.1 ～ R8.3.31			消防施設等点検業務 (機器1回) (機器・総合1回)	磐田農業高校 磐田分校
参考 9	可燃物収集運搬 処分業務	(株)ハシモト		収集運搬料 @5,940円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月	0	収集運搬料 @5,940円/回 処分料 @17.6円/kg 収納容器料 @1,100円/月		R7.4.11 ～ R8.3.31			可燃物収集運搬処分 業務 (N:12月 85回)	磐田西高校 磐田分校 単価契約
参考 10	ガスヒートポン プ点検業務	ヤマザキ・ シー・エー(株)		3,880,800	0	3,880,800		R7.8.13 ～ R8.1.31			ガスヒートポンプ 点検業務 (N:2回)	磐田北高校 磐田分校
参考 11	建築基準法第12 条に基づく定期 点検業務	(有)コセイ産業		1,869,120	0	1,869,120		R7.9.4 ～ R8.2.27			定期点検業務 (A:設備1,516.89㎡ 建築1,516.89㎡)	磐田南高校 磐田分校
参考 12	警備業務	セコム(株)		14,256,000	0	14,256,000		R6.10.1 ～ R11.9.30			警備業務 (N:12月)	浜松工業高校 城北分校
参考 13	建築基準法第12 条に基づく定期 点検業務	N.concept建築 計画 二級建築 士事務所		3,608,000	0	3,608,000		R7.11.25 ～ R8.3.24			定期点検業務 (A:設備1,389.00㎡)	浜北西高校 城北分校
	計	13件										

負 担 金 支 出 調

(令和6年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	甲種防火管理 新規講習受講料	一般財団法人 日本防火・防災 協会	受講案内	甲種防火管理 資格取得	8,000	R6.6.25
2	令和6年度全国 特別支援学校 知的障害教育 校長会会費	全国特別支援 学校知的障害 教育校長会	全国特別支援 学校知的障害 教育校長会 規則第15条	学校の管理運営 に関する調査・ 研究	15,000	R6.7.24
3	第47回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研究大会参加費	第47回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研究大会四国 (香川)大会 実行委員長	大会開催案内	第47回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研究大会	3,000	R6.7.24
4	令和6年度東海 地区特別支援 学校知的障害 教育校長会 年会費	東海地区特別 支援学校知的 障害教育校長 会会長	東海地区特別 支援学校知的 障害教育校長 会規約付則5	教育の充実・ 改善の推進及び 教育上の調査・ 研究	5,000	R6.8.9
	計	4件			31,000	

負担金支出調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業 廃棄物管理責任 者に関する講習 会受講料	公益財団法人 日本産業廃棄物 処理振興 センター	受講案内	特別管理産業 廃棄物管理責任 者資格取得	13,200	R7.6.2
2	甲種防火管理 新規講習受講料	一般財団法人 日本防火・防災 協会	受講案内	甲種防火管理者 資格取得	8,000	R7.6.9
3	第48回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研究大会参加費	第48回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研究大会関東 甲信越(埼玉) 大会実行委員長	大会開催案内	第48回全国特別 支援学校知的 障害教育校長 研 究 大 会	3,000	R7.7.4
4	令和7年度全国 特別支援学校長 会会費	全国特別支援 学校長会	全国特別支援 学校長会会則 第17条	特別支援学校に 関する教育の 課題についての 協議研究、特別 支援教育の振興	8,000	R7.7.11
5	第42回東海地区 学校図書館研究 大会及び令和7 年度静岡県高等 学校図書館研究 会研究大会参加 費	第42回東海地区 学校図書館研究 大会(静岡大会) 会長	大会開催要項	第42回東海地区 学校図書館研究 大会及び令和7 年度静岡県高等 学校図書館研究 会研究大会	3,000	R7.7.25
6	令和7年度東海 地区特別支援 学校知的障害 教育校長会会費	東海地区特別 支援学校知的 障害教育校長 会会長	東海地区特別 支援学校知的 障害教育校長 会規約付則5	教育の充実・ 改善の推進及び 教育上の調査・ 研究	5,000	R7.8.21
7	令和7年度全国 特別支援学校 知的障害教育 校長会会費	令和7年度全国 特別支援学校 知的障害教育 校長会会長	全国特別支援 学校知的障害 教育校長会 会則第15条	学校の管理運営 に関する調査・ 研究	15,000	R7.10.16
8	令和7年度静岡 県障害者虐待 防止・権利擁護 研修参加費	静岡県	受講案内	令和7年度静岡 県障害者虐待 防止・権利擁護 研修	3,500	R7.12.9
	計	8件			58,700	

建 築 工 事 調

(令和6年度)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計 金額	契約金額			契約 締結 方法	受注者	着手 完成（予定） 年月日	支出済額	工事 概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校体育館排煙窓オペレーター更新工事	浜松市中央区江之島町地内	957,000	957,000	0	957,000	随契	㈱林工組	R6.7.23 R6.8.7	957,000	排煙窓オペレーター更新	-	R6.6.11 随契1号(少額) R6.9.2
2	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校高圧ケーブル更新工事	浜松市中央区江之島町地内	1,419,000	1,419,000	0	1,419,000	随契	栄電気工業㈱	R6.12.6 R7.3.19	1,419,000	高圧ケーブル更新	-	R6.11.28 随契1号(少額) R7.4.9
3	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校誘導灯更新工事	浜松市中央区江之島町地内	770,000	770,000	0	770,000	随契	日興電気通信㈱	R6.12.17 R7.3.18	770,000	誘導灯更新	-	R6.12.6 随契1号(少額) R7.4.8
4	教育管理費	静岡県立浜松特別支援学校城北分校職員室改修工事	浜松市中央区住吉地内	2,464,000	2,266,000	△ 66,000	2,200,000	随契	㈱ヤガワ	R6.7.19 R6.8.26	2,200,000	城北分校職員室改修	-	R6.4.1 随契1号(少額) R6.9.20
	合計		4件	5,610,000	5,412,000	△ 66,000	5,346,000				5,346,000			
1	(参考)	浜松特別支援学校他体育館照明設備更新工事	浜松市中央区江之島町地内他	22,913,000	22,880,000	△ 198,000	22,682,000	一般	㈱鈴木電工	R6.6.18 R6.10.4	22,682,000	体育館照明設備更新	-	本庁執行 (浜松土木事務所) (対象校： 浜松特別支援、 浜松聴覚特別支援、 浜松視覚特別支援)

建 築 工 事 調

(令和 7 年度)
(令和 8 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計 金額	契約金額			契約 締結 方法	受注者	着手 完成 (予定) 年月日	支出済額	工事 概要	公有 財産 台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育管理 費	静岡県立浜松特別 支援学校プレハブ 校舎エアコン 室外機修繕工事	浜松市中央区 江之島町地内	451,000	451,000	△ 66,000	385,000	随契	シンワ設備㈱	R7. 9. 1 R7. 11. 19	385,000	エアコン室外 機 ファン モーター交換 等	-	R7. 7. 25 随契1号(少額) R7. 12. 11
2	教育管理 費	静岡県立浜松特別 支援学校体育館 東面排煙窓ハッケー 修繕工事	浜松市中央区 江之島町地内	726,000	726,000	0	726,000	随契	遠州建設㈱	R7. 10. 1 R7. 12. 5	726,000	体育館東 面排煙窓 ハッケー 修繕等	-	R7. 9. 11 随契1号(少額) R7. 12. 25
3	教育管理 費	静岡県立浜松特別 支援学校プレハブ校舎 1階音楽室(北)、 2階美術室(北)空調 機更新工事	浜松市中央区 江之島町地内	2,695,000	2,695,000	0	2,695,000	随契	シンワ設備㈱	R8. 2. 25 R8. 3. 16	0	ハッケーシ エアコン更新 2台	-	R8. 2. 9 随契1号(少額)
	合計		3件	3,872,000	3,872,000	△ 66,000	3,806,000				1,111,000			

公 有 財 産 調 (本校)

(令和 6 年度)

区分	令和 6 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令和 7 年 3 月 31 日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 464, 029		千円 0		千円 28, 185		千円 435, 844	
土地	m ² 16, 551. 18	265, 032					m ² 16, 551. 18	265, 032	
立木竹	本 85	1, 497			8	183	本 77	1, 314	
建物	m ² 3, 733. 32 7, 546. 91	52, 097				17, 943	m ² 3, 733. 32 7, 546. 91	34, 154	仮設校舎県有
工作物	個 93	145, 403	1	0	1	10, 059	個 93	135, 344	仮設校舎付帯設備県有
公有財産に準ずるもの		464						464	
電話加入権	6	464					6	464	

様式第22号

公 有 財 産 調 (磐田分校)

(令和 6 年度)

区分	令和 6 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令和 7 年 3 月 31 日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 49, 097		千円 0		千円 7, 649		千円 41, 448	
建物	m ² 819. 25 1, 525. 63	17, 351				5, 023	m ² 819. 25 1, 525. 63	12, 328	
工作物	個 10	31, 746				2, 626	個 10	29, 120	
公有財産に準ずるもの		80						80	
電話加入権	1	80					1	80	

公 有 財 産 調 (城北分校)

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 150,843		千円 0		千円 7,763		千円 143,080	
建物	m ² 820.44 1,389.00	133,098				6,239	m ² 820.44 1,389.00	126,859	
工作物	個 15	17,745				1,524	個 15	16,221	
公有財産 に準ずる もの		30						30	
電話 加入権	1	30					1	30	

※ 本校、磐田分校、城北分校 令和7年度異動なし

借地借家等調

(令和8年2月28日現在)

整理 区分	区分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約期間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台帳	現 況		単価	年 額			
1	土地	児童福祉 施設敷地	磐田市 西貝塚 3577-1	宅地	学校 敷地	m ² 1,017.25		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 磐田学園 長	磐田分校 校舎敷地
2	土地	児童福祉 施設敷地	磐田市 西貝塚 3577-1	宅地	駐車場 敷地	695.00		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 磐田学園 長	磐田分校 駐 車 場 敷地
3	土地	学校敷地	浜松市 中央区 住吉 5-16-1	宅地	学校 敷地	958.21		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北 工業高等 学校長	城北分校 校舎敷地
4	土地	学校敷地	浜松市 中央区 住吉 5-16-1	宅地	倉庫 敷地	5.67		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北 工業高等 学校長	城北分校 倉庫敷地
5	土地	学校敷地	浜松市 中央区 住吉 5-16-1	宅地	駐車場 敷地	41.19		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北 工業高等 学校長	城北分校 駐 車 場 敷地
6	土地	学校敷地	浜松市 中央区 住吉 5-16-1	宅地	倉庫 敷地	3.64		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北 工業高等 学校長	城北分校 倉庫敷地
	計					2,720.96		0			
1	建物	事務所建	浜松市 中央区 住吉 5-16-1	鉄 筋 コンクリート 造	校舎	131.40		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北 工業高等 学校長	城北分校 教室
	計					131.40		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)								
				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度	R13 年度
長期 継続 契約	給食調理 (配膳) 業務委託	給食調理 (配膳) 業務 (契約日) 令和5年8月3日	41,316,968	9,176,684	13,764,564	13,781,812	4,593,908					
	通学バス 輸送業務 委託	通学バス輸送 業務 (契約日) 令和6年4月1日	190,077,800		63,359,208	63,359,208	63,359,384					

行政財産貸付・使用許可調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は使用 許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜 松 市 中 央 区 江之島町 1266-2	学校敷地	学校敷地	電柱 4本	円 1,500	円 6,000	R4.4.1 ～ R9.3.31	中部電力パワー グリッド(株) 浜松支社 配電建設グループ 長	電力供給 用
2	土地	学校敷地	浜 松 市 中 央 区 江之島町 1266-2	学校敷地	学校敷地	支線 1本	1,500	1,500	R5.4.1 ～ R10.3.31	N T T西日本(株) 静岡支店長	通信供給 用
3	土地	学校敷地	浜 松 市 中 央 区 江之島町 1266-2	学校敷地	学校敷地	m ² 7.98		免除	R7.4.1 ～ R8.3.31	浜松市長	公 衆 用 道路
土地 小計								7,500			
4	建物	事務所建	浜 松 市 中 央 区 住吉 5-16-1	重量 鉄骨 造	校舎	m ² <u>208.79</u> 208.79		無償	R7.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 浜松城北工業 高等学校長	自 動 車 整備実習 室使用
5	建物	事務所建	磐 田 市 西 貝 塚 3577-1	鉄筋 コンク リート 造	校舎	m ² <u>0.06</u> 0.06		無償	R5.4.1 ～ R8.3.31	静岡県立 磐田学園長	監視カメラ 設置
建築 小計								0			
合 計								7,500			

主 要 備 品 調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	06-99	そ の 他 の 諸 機 器	大型電気窯 ニデック DAD-15C 型	陶芸実習授業用 月2回(年間20日)	令和8.1	円 2,574,000
2	01-13	冷 温 水 器	温水ボイラー	給食調理用 毎日使用(年間193日)	平成29.8	2,160,000
3	02-01	パ ー ソ ナ ル コ ン ピ ュ ー タ (一 式)	パソコン8台 カラーレーザープリンター 1台 他	情報教育用 毎日使用(年間200日)	平成30.3	1,704,564
4	01-13	加 熱 器 具	コンビオーブン ACO-102GS	給食調理用 毎日使用(年間193日)	令和2.3	1,570,800
5	02-01	パ ー ソ ナ ル コ ン ピ ュ ー タ (一 式)	NAS1台 ノートパソコン6台 他	情報教育用 毎日使用(年間200日)	令和2.1	1,460,932
6	03-03	プロジェクター	プロジェクター マクセル MC-BW302J	情報教育用 毎日使用(年間200日)	令和3.3	1,402,711
7	01-14	エアコンディショナー	ダイキン SSRH140BB (H) 天吊型 室外機耐重塩害仕様	7月～9月、12月～1 月毎日使用 (年間100日)	平成30.3	1,393,200
8	02-01	パ ー ソ ナ ル コ ン ピ ュ ー タ (一 式)	NAS1台 ノートパソコン6台 他	情報教育用 毎日使用(年間200日)	令和2.1	1,381,336
9	01-13	食 品 食 器 洗 浄 機	自動食器洗浄機 W2200×D940×H1125	給食用 毎日使用(年間193日)	平成18.8	1,291,500
10	06-09	そ の 他 の 木 工 用 機 器	軸斜傾線横挽丸鋸盤 鋸軸傾斜角度-1～46℃	木工実習授業用 週2回(年間70日)	平成10.2	1,203,300
11	10-08	そ の 他 の 芸 術 用 器 具	陶芸用窯 プロパンガス用 W1570×D1120×H1450	陶芸授業用 年1回	昭和57.3	1,200,000
12	10-07	鍵 盤 楽 器	ピアノ グランドピアノ	磐田分校授業用 毎日使用(年間200日)	平成11.11	1,183,000
13	06-09	木 工 用 機 械	自動一面かんな盤 削り幅・長さ 400×250以上 刃物寸法 5×32×400以上	木工実習授業用 週2回(年間70日)	平成11.3	1,155,000
14	02-02	放 送 装 置	校内放送設備 Panasonic WL-SA211 他	本校用 毎日使用(年間200日)	令和4.3	1,053,800
15	10-08	そ の 他 の 芸 術 用 器 具	陶芸用窯 プロパンガス用	磐田分校授業用 年1回	昭和63.10	980,000
16	01-14	エアコンディショナー	日立 RPC-AP140VM1	7月～9月、12月～1 月毎日使用 (年間100日)	平成20.7	966,000
17	01-13	そ の 他 の 厨 房 器 具	消毒保管庫 中西製作所 MCSK-15-s 片面	給食食器管理用 毎日使用(年間193日)	令和7.7	877,800
18	06-09	そ の 他 の 木 工 用 機 器	集塵機 ムラコシ HM-5000	木工実習授業用 週2回(年間70日)	平成11.3	871,500
19	01-13	そ の 他 の 厨 房 器 具	三槽シンク 1790*890*880	給食調理用 毎日使用(年間193日)	令和6.3	823,900
20	01-14	エアコンディショナー	日立 RPC-AP140VM1	7月～9月、12月～1 月毎日使用 (年間100日)	平成20.7	819,000

公務中の事故等に関する調（本校）

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

物品の亡失 1 件

亡失の概要とその後の状況

備品番号07-004100 ノートパソコン（NEC VersaPro）1台 取得価格106,995円

令和7年度の備品の現物確認を、令和7年9月下旬から11月30日の間に実施した。11月上旬に情報教育課長から当該備品が見つからないと連絡を受け、11月10日から令和8年2月13日にかけて集中的に探したが見つからなかった。

情報教育課長によると、当該備品は職員が進路用として使用していたが、近年は新しいパソコンが増え、使用頻度は低かった。基本的にデータはサーバに保存しているため当該備品内にはデータは無く、個人情報が入っていない。

当該備品は、基本的に設置されている場所で使用することがほとんどで、管理簿は作成していなかった。

令和8年2月17日に用度課の物品指導検査があった。当該備品は、物品指導検査での現物確認に抽出されていた。物品指導検査日までに当該備品を発見できなかったため、用度課の検査員に上記内容を説明したところ、当該備品が見つからない場合、「物品亡失届」を提出するよう指示あり、その処理をした。

2 公務災害（通勤災害を含む。）

番号	受傷 年月日	職名	認定 年月日	治癒 年月日	事故等の概要とその後の状況
1	令和7年 12月22日	教諭	令和8年 3月24日	令和8年 1月20日	当該教諭が下校見守りをしていたところ、急な下校方法の変更に不安定になった生徒から突き倒された。左脇腹に痛みがあったため整形外科を受診し、左肋骨骨折と診断された。
2	令和8年 1月8日	教諭	令和8年 3月26日		当該教諭が徒歩で出張に行くため向かっていた駅付近で後方から来た右折車と接触し左半身を負傷した。警察の現場検証後整形外科を受診し、外傷性頸肩腕症候群、腰椎捻挫、左肩関節打撲傷、左膝関節打撲傷、左手部打撲傷・擦過創と診断された。
3	令和8年 2月19日	教諭	令和8年 4月10日		当該教諭が授業時間中、教室で保護者への連絡ノートを記入していたところ、背後から近づいてきた生徒に左目を叩かれた。痛みがあったため眼科を受診し、左眼球打撲症と診断された。

3 公務中における交通事故

(1)発生状況

区 分	件 数	事 故 の 内 訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	その他 (過失割合が不 明なもの等)
令和3年度	0	0	0	0
令和4年度	0	0	0	0
令和5年度	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0

(2)監査対象期間中の事故

な し

4 その他

な し

公務中の事故等に関する調（磐田分校）

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

な し

2 公務災害（通勤災害を含む。）

番号	受傷 年月日	職名	認定 年月日	治癒 年月日	事故等の概要とその後の状況
1	令和7年 7月3日	教諭	令和7年 10月16日	令和7年 7月28日	校外学習の引率をした際、突然怒り出した生徒が鞆を振り回し、当該教諭の顔にあたり、顔から出血した。整形外科で顔面挫創、顔面外傷性皮膚欠損創、顔面挫傷の診断を、眼科で右眼球打撲症の診断をされた。

3 公務中における交通事故

（1）発生状況

区 分	件 数	事 故 の 内 訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	その他 (過失割合が不 明なもの等)
令和4年度	0	0	0	0
令和5年度	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0
令和7年度	0	0	0	0

（2）監査対象期間中の事故

な し

4 その他

な し

公務中の事故等に関する調（城北分校）

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

な し

2 公務災害（通勤災害を含む。）

な し

3 公務中における交通事故

（1）発生状況

区 分	件 数	事 故 の 内 訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	その他 (過失割合が不 明なもの等)
令和4年度	0	0	0	0
令和5年度	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0
令和7年度	0	0	0	0

（2）監査対象期間中の事故

な し

4 その他

な し

工事中の事故に関する調

1 工事中の事故発生状況

(令和8年2月28日現在)

区分	第三者事故					工事等の関係者事故				もらい事故 (負傷者あり)	
	件数	死亡	重傷	軽傷	損害のみ	件数	死亡	重症	重症以外	件数	死傷
令和5年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人
令和6年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人
令和7年度	0件	0人	0人	0人	0件	0件	0人	0人	0人	0件	0人

2 工事中の事故の内容

該当なし

前回の監査結果等改善状況調

1 定期監査

前回監査 令和7年5月29日

前回監査対象期間 令和6年2月1日～令和7年2月28日

区 分	改 善 状 況
1 指 摘 該当なし	
2 注 意 該当なし	
3 意 見 該当なし	
4 指 導 該当なし	